

科目名	メディアコミュニケーション論		
担当教員名	安達 一寿、棚谷 祐一、石野 榮一、川口 英俊 他		
ナンバリング	KJa101		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1、2に該当する。

メディアコミュニケーション学科必修専門科目で、4年間学修する学科の専門科目の内容を総括的に学修するものである。

科目の概要：メディアコミュニケーション学科での学びのイントロダクションとして、メディア社会、メディア文化、メディアデザイン、メディアプロデュースの各分野の概要と知識、問題や課題について総括的に学修します。各テーマの1回目は、該当分野に関する理解、動向などの解説、調査事項や課題の提示、2回目は、提示された課題に関する討議や発表などをおこないます。

学修目標：

- ・メディア社会、メディア文化、メディアデザイン、メディアプロデュースの各分野の概要の理解と知識の修得ができる。
- ・分野での課題や諸問題に関心を持ち、問題意識を持つことができる。
- ・大学で主体的に学ぶ態度を身につける。

内容

1	オリエンテーション、メディアコミュニケーションの概要(安達)
2	現代社会でのメディアの役割と課題(安達)
3	地域社会におけるメディアの概況(石野)
4	地域メディアの役割と活用(石野)
5	メディア社会-インターネットの利活用(川口)
6	メディア社会-インターネットの影響と問題(川口)
7	メディア文化：メディアによって広がる文化(田総)
8	メディア文化：メディアによって変化する文化(田総)
9	メディアデザイン～メディアとデザインの関係とリテラシー(川瀬)
10	メディアデザイン～コミュニケーションツールとしてのデザイン(川瀬)
11	現代メディアビジネス総論1(加藤)
12	現代メディアビジネス総論2(加藤)
13	音楽、または音響メディアとテクノロジー1(棚谷)
14	音楽、または音響メディアとテクノロジー2(棚谷)
15	まとめ(全員)

評価

各テーマごとに小レポートを課します(7回×10点=70点)。平常点を30点とします。

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】メディアの動きに関心を持ち、世の中の動向を調べる。(60分)

【事後学修】授業で習ったことを整理し、自らの課題をまとめる。(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定しない。

科目名	生活とメディア		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング	KJa102		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

メディアコミュニケーション専門必修科目である。

科目の概要

情報がネットワーク化され、情報の量と速度は飛躍的に増大している。そして、情報はメディアを通して、我々の生活の中にも浸透している。主体的に情報を取り扱うためには、メディアリテラシーを身につけると共に、生活の中でのメディアの役割や特徴を理解する必要がある。本科目では、メディアは生活をどのように変えたかをテーマに、ソーシャルメディアなどの新しい活用と影響などについて理解を深める。

学修目標 (= 到達目標)

- ・メディアに対する基礎的な知識を修得し、メディアと生活の関心や理解を深める。
- ・メディアの特性を理解し、社会や生活との関係を理解する。
- ・現代社会や生活でのメディアに関する課題に関して情報収集・分析を行い、その問題解決を通して、総合的なメディアリテラシーを身につける。

内容

講義による解説とグループ活動での課題解決、発表活動を行う。

1	情報社会・メディア社会の現状と課題
2	生活や地域におけるメディアの利活用
3	メディアのパーソナル化
4	コミュニティとしてのメディア
5	演習
6	課題発表 (コミュニティ)
7	モバイルメディアの発展
8	メディアとビジネス
9	課題発表 (ビジネス)
10	教育とメディア
11	娯楽・エンターテインメントとメディア
12	メディアの将来への企画
13	課題発表 (エンターテインメント)
14	社会の中でのメディアの役割
15	まとめ

評価

授業への参加度 10%、ふり返りシートの活用 20%、レポート試験 70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業で利用する資料を事前にポータルサイトから提供するので、それを利用しての予習(60分)

【事後学修】ふり返りシートを利用しての授業のまとめ(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない

【推薦書】青木他,日常生活のデジタルメディア,NHK出版,2300

土橋他,デジタルメディアの社会学,北樹出版,2100

東京情報大学編,情報学の楽しさ,東京農業大学出版会,1600

【参考図書】授業時に紹介する

科目名	情報倫理と法		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング	KJa203		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

本学科では情報、メディアに関する専門を学ぶが、それらの基礎となる「情報」の意味について法的・制度的な面も含め理解を深める。情報社会に生きる上で身に付けるべき情報との接し方 (倫理的対応) を考える機会とする。

科目の概要

普段、意識せずに接する情報だが、情報が持つ社会的意味を憲法が保障する表現の自由からとらえ直す機会とする。また、情報には送る側と受け取る側が存在するが、双方における情報の接し方を倫理的に考察しながら、メディアリテラシーを涵養する。特に著しい進化を見せるネット社会における情報の扱い方を具体例を交えながら学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

情報について、表現の自由を出発点に法的、制度的な側面から理解を深め、情報の自由な流通が個人の尊重、民主主義社会に不可欠であることを学ぶ。ネット社会において情報の賢い「受け手」と「送り手」になるために、倫理的な対応を具体例を通して考える。

内容

1	授業ガイダンス、情報に関するアンケート (1 回目)、倫理とは
2	情報の定義、情報倫理の意味、表現の自由の歴史・社会的意味
3	日本国憲法における「表現の自由」の保障 1
4	同 2
5	表現の自由の限界・制約 1
6	同 2
7	具体的な報道事例を基にした表現の自由の保障と制約事例
8	課題提示によるレポート作成
9	ネット社会における情報の意味
10	ネット社会における情報の受け止め方 1
11	同 2
12	ネット社会における情報発信の留意点 (法的規制の意味も含め) 1 弁護士による講義
13	同 2 弁護士による講義
14	同 3
15	課題提示によるレポート作成、情報に関するアンケート (2 回目)

評価

授業の参加度と各回の課題取り組みを60%、中間レポート評価20%、最終レポート評価20%を目安とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】日々のニュースのチェック、提示した資料の事前学習。(概ね60分)

【事後学修】授業で取り上げたテーマを新聞などを参考に再確認する。(概ね60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要に応じて指示。毎回の授業で資料として使えるレジュメを配布する。

【推薦書】必要に応じて指示、教室にて紹介する。

【参考図書】新聞、テレビなどマスメディアのニュース、ネットニュース

科目名	社会とニュース		
担当教員名	荻 太		
ナンバリング	KJa204		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1に該当しつつ2も展望する。

1年次で基礎知識の絶えざる補給の重要性を学びました。この講座では、その部分を深めていきます。

文章の上達には洞察力やボキャブラリー、観察力といった能力が欠かせません。ではそれをどこへ向けるかという今起きている出来事が主になるはずで、何を書きたいかと選択を迫られた場合に社会現象の基礎知識がないと身近な経験でしか語れません。そうならないように客観的な「社会のありよう」をニュースを通じて知り、より深い洞察へとつなげていきます

学修目標

ニュース検定公式テキストを用いて以下を目指す。

- 1 今、社会で何が起きているのかを具体的に把握する
- 2 ニュースとは何かを知る。賛否両論の意見を学びながら知見を広げる
- 3 その上で自分の意見を確立させていく

内容

1	政治1 (三権分立の仕組みと意義。国会と選挙など)
2	政治2 (日本国憲法の内容・日本の外交など)
3	政治3 (地方自治の仕組みなど)
4	経済1 (財政の仕組みと近年の日本財政)
5	経済2 (産業とエネルギーなど)
6	暮らし1 (少子高齢化と社会保障のあり方など)
7	暮らし2 (引き続き社会保障と働き方について)
8	社会環境1 (共生社会と情報社会のあり方など)
9	社会環境2 (司法の果たす役割など)
10	社会環境3 (生命倫理など)
11	社会環境4 (自然災害や復興について)
12	社会環境5 (地球温暖化に代表される国際的取り組み)
13	国際1 (アメリカと中国)
14	国際2 (分断と統合の行方)
15	まとめ

評価

授業への参加度40%、小テストやリアクションペーパー等20%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習内容を深められるようにする。

授業外学習

【事前予習】授業はテキスト20テーマを毎回1・2テーマ解説する。該当箇所を授業後に指示するので熟読してくる。

【事後学修】主に2つ。1つは授業内で説ききれなかった問題が6～10問発生するので解いてくる。もう1つは授業時に配布するミニテストを解いて次回までに提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

2019年度版ニュース検定公式テキスト&問題集「時事力」基礎編（3・4級対応）

編者「ニュース検定公式テキスト編集委員会」

毎日新聞出版

科目名	メディア産業論		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング	KJa305		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

旧メディア 4 媒体 (新聞、出版、テレビ、ラジオ) のビジネスモデルを軸とし、これと密接に絡む新たなメディア (インターネット、電子媒体) も俯瞰しながらメディアビジネスを概観し、その理解に努める。メディアから発信されるコンテンツの重要性を押さえつつ、各メディア企業の良質のコンテンツ、さらに「広告」の役割も見つめて、メディア業界の今後を展望する。

科目の概要

新聞、テレビ、雑誌、ラジオという既存メディアの厳しいビジネス環境とともに、インターネット、webメディアの展開を学ぶ。これら新旧のメディア企業の生命線である広告ビジネスについても認識を深める。

学修の目標

インターネットを介した SNS が重宝される時代にあって、現代人が湯水のように接するメディアのビジネス構造を理解し、ビジネス的観点からメディアリテラシーを高める。メディアビジネスの現場で働く人の現実を的確に把握し、メディアへの就職を志向する学生のモチベーションをアップさせる。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、レポート作成などに取り組みながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス (メディア業界の概観)
2	メディア業界の今を各種統計から切り取る
3	メディアと広告の関係
4	新聞業界の今 1
5	新聞業界の今 2
6	出版業界の今
7	テレビ業界の今 1
8	テレビ業界の今 2
9	ラジオ業界の今
10	通信社の役割
11	インターネット業界の今 1
12	インターネット業界の今 2
13	テレビ放送のネット同時配信
14	PR 会社の役割
15	まとめ

評価

授業への参加度 50%、毎回の課題 30%、最終課題 20% で評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業ごとに前回授業の内容を確認し、学生の質問を受けながら理解を深める。

授業外学習

【事前予習】次回授業で取り上げるメディア業界の特徴を指示に従って整理しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で取り上げたメディア業界の課題をレジュメや新聞、書籍などを使って自分なりのノートにまとめる。科目終了時には1冊のレポートに仕上がるようにする。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。毎回配布するレジュメと指示した資料を検索・分析しながら授業を進める。必要な書籍等は授業時に紹介する。

【参考図書】「メディア産業論」（共著、有斐閣）「日本のマスメディア」（春原明彦ほか、日本評論社）

科目名	プレゼンテーション技法		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング	KJb106		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

効果的なプレゼンテーションスキルの習得と自分のメディア力を高めることを目指します。

科目の概要

・Power Point を使える武器として使えるように実践的なスキルを、各自のコンテンツのプレゼンテーションをおこなうことを通して学びます。文字のレイアウト、音声、画像、動画の処理など高度なテクニックも取り入れたCool なプレゼンテーションのTipsを習得しましょう。

・この授業は、アクティブラーニング (学生が自ら正解を探す「能動的学習スタイル」) による参加型授業です。授業内の実習だけでは技術は向上しません、課題などハードなハードルも乗り越え、より高いもの達成したいという学生の受講を期待します。

学修目標

- ・プレゼンテーションの基本的な考え方や技能を理解する。
- ・Power Point の実践的な活用スキルを身につける。
- ・テーマに沿ったプレゼンテーションの準備ができる。
- ・実際に効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

内容

- ・『PowerPoint』の基本操作
- ・プレゼンテーションのプランニングと構成
- ・スライドの作成
- ・人前で話すための基本姿勢
- ・プレゼンテーション演習

1	コミュニケーションツールとしてのプレゼン技術
2	プレゼンテーションの基本概念
3	プレゼンテーションマインドを高める
4	プレゼンテーションの設計
5	プレゼンテーションの極意
6	プレゼンテーションの評価
7	ビジュアルプレゼンテーション演習
8	グループプレゼンテーション課題 1
9	グループプレゼンテーション課題 2
10	グループプレゼンテーション課題 3
11	プレゼンテーション制作 1
12	プレゼンテーション制作 2

13	プレゼンテーション制作 3
14	発表・評価
15	まとめ

評価

- ・パワーポイント演習課題 20%
- ・グループプレゼン課題制作・発表 40%
- ・プレゼン制作・発表 40%

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】制作発表における事前課題の実施(60分)
- 【事後学修】授業に関する事後評価の実施(60分)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】PowerPoint ビジネス問題集 [2013対応] ,日経 B P
- 【参考図書】中澤務・森貴史・本村康哲編, 『知のナビゲーター』, くるしお出版(入門ゼミナールと同じ)

科目名	クリエイティブライティング		
担当教員名	荻 太		
ナンバリング	KJb107		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1に該当しつつ2も展望する。

人の心をとらえる文章はどう書くか。「読み、書き、聞き、話す」トータルな常識と文章のスタイルを押さえて、説得力を持つ文章を書けるように指導する。

意思伝達の基本として、手紙の書き方、敬語の使い方等の文章作法から入り、さまざまな文章スタイルを認識したうえで、内容があり、相手を引きつける文章が書けるように努める。

学修目標

- 1 文章への苦手意識を克服し、日常の各場面で文章を活かす発想を身に付けてもらう。
- 2 文章を書くことの楽しさを味わい、文章を作りながら事象に対する見方を深める。

内容

1	敬語の使い方1 (概略を知る)
2	敬語の使い方2 (実際に使ってみる)
3	魔法の言葉「5W1H」とは何かを解説し応用してみる
4	「5W1H」を用いた自分の行動を書いてみる
5	より面白く「5W1H」を使い込むために書き直す
6	他者へインタビューして人物像を聞き出す
7	聞き出した人物像を逆三角形で表現する
8	ボキャブラリー充実をさらに (通常毎回行っているボキャブラリーテスト拡大版)
9	見出しをつけてから文章を書き始める訓練を実践する
10	見出しの次に重要なリード作成を行う
11	詩の意味を類推しつつ想像力を高める
12	時事問題へ取り組んでみよう (45問4択問題に取り組む)
13	誤字・脱字・思い込み等を避けるため校正の実務を学ぶ
14	さまざまな表現方法。比喩表現などの紹介と実践
15	まとめ

評価

授業への参加度40%、リアクションペーパー等10%、課題提出 (約6回) およびその内容20%、筆記試験30%とし総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初にリアクションシートの内容のうち共有すべき点を返答し、学習内容を深めていく

授業外学習

【事前予習】授業終了前に次回までにやっておくべき内容を指示する。

【事後学修】復習することを必須とする。配布した資料をまとめられるファイルを準備し、内容を深められるようにするとともに授業内で行ったメモや下書きを書き留めるノートを別途に用意する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示します。

科目名	クリエイティブライティング		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング	KJb207		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1, 2, 3に該当する。

本科目はマスメディア、ネットメディアなどの役割や影響、社会での利用方法について学ぶ。情報を集め取捨選択し、まとめる力を身につける。現代社会の諸問題に興味を持ち、問題意識を持つなどの力を育成するものである。

科目の概要 レポート作成の技術、ルールを学びながらレポートを作成していく。そのレポートをパワーポイントを用いて作成・発表していく。

学習目標 授業でのレポートなどの課題、3年次のゼミ等における発表、4年次の卒業研究に対応していくための基本的技術の習得を第一目標とする。与えられた情報をどう解釈し、どう加工していくか、どうまとめていくかといった応用問題に対応できる基礎を身につける。自分の問題意識に沿って必要な知識と技術を見つけ出し解決していく能力を身につける。

内容

パソコンを使いながらレポート作成におけるワープロソフト・表計算ソフト、発表におけるプレゼンテーションソフトの使い方を実践の中で学ぶ。

- ・論文・レポート作成に関する基本的パソコン技術
- ・参考文献・ホームページの検索・収集のための技術
- ・レポートの書き方に関する基本的知識プラスアルファ
- ・レポートに取り込むための図表作成 (エクセルによる)、ホームページからの引用
- ・レジュメ作成 - 構成の作り方
- ・パワーポイントによる発表・プレゼンテーション技術

評価

課題 (30%)、発表 (30%)、平常点 (40%) 等を総合的に判断する。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業毎に作成するノートに書かれた疑問・意見などに授業で回答する。

授業外学習

【事前準備】事前に予告された項目についての基礎知識・PC技術を調べる。与えられた課題を作成する。(各授業に対して30 - 60分)

【事後学修】授業での指導に基づいてレポート・発表内容の再検討と修正を行う。(各授業に対して30 - 60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【推薦書】中澤務・森貴史・本村康哲編、『知のナビゲーター』, くろしお出版

科目名	メディア分析		
担当教員名	高倉 佐和		
ナンバリング	KJb208		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の基礎専門科目であり、学位授与方針1.2.に該当する。

統計学の基本的な知識と、卒業研究などで活用できる実際的な分析手法について扱う。Excel を用いて演習を進めるため、Excelの基本操作を習得していることが望ましい。

科目の概要

Web上の数値データやテキストを中心に、特徴や傾向を分析する。限られたデータからその背景にある全体について予測・判定するためのデータ解析手法を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- i) 情報処理に関する基本的な知識を習得する。
- ii) 科学的分析の意味を理解し、Excelを用いた解析法を習得する。また、その結果を正しく解釈できる。
- iii) メディアの分析を通じて、人間の認知に対して効果の高いメディア (プレゼンテーション資料や発表原稿) を作成できる。

内容

この授業は講義を基本に、演習、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス、メディア分析手法外観
2	Excelの基本操作の確認、データ解析の基礎 (平均と分散)
3	データ解析の基礎 (度数分布、ヒストグラム、信頼区間)
4	演習 (1) Excel 演習
5	数値データ解析 (検定)
6	数値データ解析 (回帰分析)
7	数値データ解析 (相関)
8	演習 (2) Excel 演習
9	テキストデータ分析 (1) 形態素解析・固有表現抽出
10	テキストデータ分析 (2) 印象・文章表現の特徴を数値化する手法
11	演習 (3)
12	テキストデータ分析 (3) テキストマイニングの実践
13	演習 (4)
14	プレゼンテーション (演習成果発表会)
15	まとめ

評価

テーマ毎に演習課題 (全4回) を提出する。各20点、計80点。

提出された課題は、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

その他、簡単な授業内課題を提示し、平常点20点とする。それらの内容を総合評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】各授業で扱う分析手法に関して、Web独習教材「統計学がわかる」の例題を1題以上、Excelで実践し、内容と疑問点を整理しておく（各授業に対して60分）。

【事後学修】毎回、簡単な課題を提示するので、完成させる（各授業に対して60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】なし。講義で使用する資料は電子データにて提供する。

【推薦書】

- ・向後千春・富永敦子著、「統計学がわかる」、技術評論社
- ・上田太一郎監修、村田真樹・他著、「事例で学ぶテキストマイニング」、共立出版

【参考図書】

- ・涌井貞美・涌井良幸著、「統計解析がわかる」、技術評論社

科目名	ディベート		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング	KJb209		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1, 2, 3に該当する。

本科目はマスメディア、ネットメディアなどの役割や影響、社会での利用方法について学ぶ。情報を集め取捨選択し、まとめる力を身につける。現代社会の諸問題に興味を持ち、問題意識を持つなどの力を育成するものである。

科目の概要

2年生後期の専門必修。ディベート、グループディスカッションの基礎知識を身につける。問題点の把握、解決法の模索、証拠・論理を用いた立論、議論・討論について学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

相手を論破することが目的ではなく、論点を整理し、相手の主張を理解した上で自分の立場からの主張を行うというコミュニケーション能力の習得を目指す。コミュニケーションの基礎知識を持つだけでなくそれを利用して自分の立場から主張を行う、相手のことを否定するのではなく相手の主張のメリット・デメリットを明らかにした上で自分の主張を説得的に展開する能力を得る。

内容

インターネットを使いながらディベートの基礎知識を修得し、ディベートの各テーマについては是側否側それぞれの立場から立論しディベートを行う能力を身に付けていく。

- 1 ガイダンス ディベートとは ディベートテーマ
- 2 ディベートにおける立論・反論とは
- 3 ディベートの準備 調査、証拠集め、議論
- 4 ディベートの記録、フローシート
- 5 ディベートの流れ 立論、質疑、反駁、結論
- 6 ディベートにおける勝敗の基準、審判のジャッジについて
- 7 ディベート1-1
- 8 ディベート1-2
- 9 ディベート1-3
- 10 ディベート2-1
- 11 ディベート2-2
- 12 ディベート2-3
- 13 ディベート3-1
- 14 ディベート3-2
- 15 ディベート3-3

評価

授業内での提出物（60％）、ディベート（40％）として評価を行う。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業毎に作成するノートに書かれた疑問・意見などに授業で回答する。

授業外学習

【事前予習】前回授業に予告されたディベートテーマの基礎知識修得と立論準備を行う。（各授業に対して30 - 60分）

【事後学修】授業で行ったディベートの反省と改善点を検討しより効果的なディベート技術を検討する。（各授業に対して30 - 60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】レジユメを用意する。

【推薦書】中澤務・森貴史・本村康哲編、『知のナビゲーター』，くろしお出版

科目名	放送メディア論		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KJc110		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

暮らしの中のことば、とくに情報メディアで使われていることばに着目し、メディアの役割や課題について考察する。さらに個人とメディアとの関わり方を考える。

科目の概要

私たちはマスメディアによって世の中の情報を入手している。一方インターネットを活用することで、私たち一人ひとりが情報発信者として世の中の動きに参加できる時代になっている。放送を取り巻く環境の変化や歴史を学び、放送の仕事の内容やことばに対する姿勢に着目する。さらに個人が放送などのメディアとどのようにかわれば良いのかを考えていく。課外授業や外部の講師を招く可能性もあるので、特に熱心な学生の参加を希望する。

学修目標 (= 到達目標)

自分の判断で放送やインターネットを上手に利用し情報社会と関わっていく姿勢を身につける。

内容	
1	ガイダンス 情報メディアとことば
2	メディア・リテラシーについて
3	放送の歴史と放送博物館
4	放送は何を伝えてきたか～ドキュメンタリーを分析する
5	放送は何を伝えてきたか～テレビドラマを分析する
6	放送は何を伝えてきたか～生活情報番組を分析する
7	ディレクターの仕事とことば
8	アナウンサーの仕事と日本語
9	記者の仕事と報道のことば
10	アーカイブス事業と戦争証言
11	インターネットのことば～情報発信者として
12	プレゼンテーションについて
13	プレゼンテーション
14	生活の中のことばとコミュニケーション
15	まとめ

評価

日頃の授業への取り組み(20%) ミニレポート(40%) 期末レポート(40%) などから総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】資料を読む。指定された番組を視聴して疑問点などをまとめる。

【事後学修】ミニレポートなどを書く。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	広告論		
担当教員名	岩本 昭治		
ナンバリング	KJc211		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科学位授与方針に該当するメディア文化・社会に関わる専門知識に

基づいて、その技能を社会のコミュニケーションに実践的に活用する力を習得する

現代社会において広告は、経済活動の一環として今や切っても切れない存在である。現代経済の消費行動において広告の役割、マーケティングの中の広告の位置づけを学生の身近の問題・そして課題として捉えてもらうことを狙いとします。

科目の概要

広告の定義、歴史、マーケティング、広告媒体ビジネスなどを各個別にレクチャーし広告の全体像をつかんでもらう。

学習目標

学生にとって身近な広告は実はこのような目的であり、ねらいであったか、広告媒体というのは、どのようなもので、その媒体の価値は、その媒体での広告ビジネスはどういうものかを具体的に教室で提示し社会のなかでの身近にある広告の位置づけ、役割を認識してもらう。

内容

過去と現在のテレビコマーシャルを実際に全体の講義のなかでDVDで流しながら講義を行います。

1	講義の概要と広告トピックス
2	広告の定義と歴史
3	広告の機能と種類
4	マーケティングと広告
5	広告主の組織と役割
6	広告主の組織と役割
7	最近の広告主の動向
8	広告会社とは・・・。
9	新聞広告ビジネス
10	雑誌広告ビジネス
11	テレビ広告ビジネス
12	ニューメディア広告ビジネス
13	S P 広告ビジネス
14	広告倫理
15	まとめ

評価

授業への取り組み70%、課題30%とし、総合評価60点以上を合格とします。

【フィードバック】各授業の際、終了時備授業内容についての質問を次週の授業で質問のあった学生に文書で各自に答えます。

授業外学習

【事前準備】提示する課題の予習を行う。(各授業に対して20分)

【事後学修】学んだテーマを掘り下げて各自で内容を理解し、深められるようノートする。
(各授業60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業中に指示

【推薦書】授業中に指示

【参考図書】授業中に指示

科目名	異文化コミュニケーション		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング	KJc112		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針3に該当する。

学科選択科目として、異文化コミュニケーションの特徴を学ぶ。

異なる文化的背景を持つ人と出会ったとき、私たちはうまくコミュニケーションができないと感ずることがある。それは、手段(言語、非言語)が充分でないからなのか、それとも、考え方(文化)が違うからなのだろうか。授業では、コミュニケーションの方法と文化のつながりについて考え、異文化間のコミュニケーションの特徴を探る。さらに、「ネット社会」の急速な発展など最近の社会の変化が、異文化コミュニケーションのあり方に及ぼしている影響についても考えてみたい。

文化の違いとは何かを理解すると同時に、自文化についても考え直すきっかけとする。

内容

この授業は講義を基本とし、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	異文化コミュニケーション研究の歴史(1): 外なる異文化
2	異文化コミュニケーション研究の歴史(2): 内なる異文化
3	コミュニケーション: 何を伝えるか
4	コミュニケーション: どうやって伝えるか
5	異文化: 文化とは何か
6	非言語コミュニケーション(1); 動作
7	非言語コミュニケーション(2): 外見
8	言語によるコミュニケーション(1): 言語
9	言語によるコミュニケーション(2): 思考
10	コミュニケーション・スタイル
11	異文化理解
12	メディアと異文化
13	国際社会における異文化コミュニケーション
14	多文化世界: 異文化の融合と共生
15	まとめ

評価

レポート(50%)、試験(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートの総評は授業で発表、希望者には個々のコメントをつけて返却

授業外学習

【事前予習】身の回りで異文化と感じたことを記録しておく（各授業に対して45分）

【事後学修】授業での説明を参考に、それが異文化と感じた理由を記録する（各授業に対して45分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】石井敏 他 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣 2013年

【推薦書】石井敏 他 『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣選書 1997年 361.54/1

【参考図書】古田暁 他 『異文化コミュニケーション・キーワード 新版』有斐閣双書 2001年

科目名	新聞ジャーナリズム論		
担当教員名			
ナンバリング	KJc213		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

若い世代の活字離れが深刻である。特に新聞購読率の低下は著しい。しかし、日々のテレビ番組やインターネットニュースサイト記事の大元には新聞記者の仕事があることを知る人は少ない。新聞記者が担うジャーナリズムへの期待の表れでもある。メディアにおけるジャーナリズムとは何かを新聞報道、新聞記者に関する具体的な事例を通して学び、深めていく。

科目の概要

多様なメディアが存在するが、今なお信頼度が最も高いのが新聞である。新聞の歴史を踏まえ、現代社会における民主的、文化的な生活を送るために新聞が果たす役割をジャーナリズムという視点でとらえなおす。

学修目標 (= 到達目標)

新聞ジャーナリズムが内包する課題も直視し、メディアにおけるジャーナリズムの理解を深める。学生のメディアリテラシーを養う。

内容

1	ガイダンス 新聞とは何か
2	歴史の中の新聞 世界と日本
3	表現の自由における新聞の役割
4	新聞とジャーナリズム
5	ジャーナリズムの社会的意義
6	ジャーナリズムの倫理と責任
7	取材活動の実際
8	国民の知る権利と権力監視 新聞と政府の関係
9	取材・報道と法
10	報道分野とジャーナリズムの課題 政治報道
11	同上 経済報道
12	同上 事件報道
13	同上 裁判報道・人権報道
14	ジャーナリズムとメディアリテラシー
15	まとめ、最終レポート

評価

授業への参加度60%、毎回のレポート20%、最終レポート20%ととし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】日常的に新聞を読む

【事後学修】授業内容、課題の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】 授業で提示する。

科目名	広報論		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング	KJc214		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

企業や各種団体が持続可能な活動をしていくには、広く社会に知られ、理解され、支持されることが必要となる。その手段として広報があり、官民間問わず広報の重要性は高まっている。広報の役割を学ぶとともに、企業や官公庁でどのように広報活動が行われているかを学ぶ。企業・組織のコンプライアンス、危機管理機能の面も含め、広報全般について認識を深めることを授業の主眼とする。

科目の概要

現代の情報社会にあって、広報の重要性は論を俟たない。特に企業や官公庁の現場では、広報紙など広報媒体 (広報紙・広報誌、WEB等) および広報業務の位置付けが大きくなっている。その意義と役割を踏まえた「広報のあり方」を学ぶ。広報の現場に身を置く実務者も招き、理論と実際の両方を見据えた理解に努める。

学修目標 (= 到達目標)

発信する側からの思考論理・発信方法を吸収することで、広報 (情報) の受け手になったときのメディアリテラシーを学ぶ。同時に広報媒体で情報を発信するに当たっての留意点を具体的な事例・実践を通して学ぶ。将来、官公庁や各種諸団体、一般企業の広報部門に配属されるケースも視野に入れ、実践に強い学生を育てるための授業を展開する

内容

1	ガイダンス (行政・企業等の「広報」を志す人のために)
2	広報の成り立ちと定義、役割
3	広報と広告
4	広報と広告との違いを多方面から分析
5	ジャーナリズムと広報の関係
6	広報と記者クラブ
7	ニュースリリースを理解する
8	新聞・テレビ・WEBなどのメディアと広報の関係
9	広報が担う危機管理
10	広報の現場を学ぶ (官公庁編)
11	広報の現場を学ぶ (企業編)
12	インターネット社会における広報活動全般を学ぶ
13	オウンドメディアを学ぶ
14	PR会社について学ぶ
15	まとめ、最終課題

評価

授業への参加度60%、毎回の課題30%、最終課題10%で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】提示する課題の予習を行う。(各授業に関して60分ほど)

【事後学修】学んだテーマを新聞など資料を参考にしながら掘り下げる。(各授業に関して60分ほど)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しないが、参考図書として日本PR協会編の「広報・PR概説」(PRプランナー資格認定制度/検定試験対応テキスト)を購入することが望ましい。

科目名	インターネット社会論		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング	KJc215		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1, 2, 3に該当する。

本科目はマスメディア、ネットメディアなどの役割や影響、社会での利用方法について学ぶ。情報を集め取捨選択し、まとめる力を身につける。現代社会の諸問題に興味を持ち、問題意識を持つなどの力を育成するものである。

科目の概要

インターネットによる社会の変化とその問題点を理解する。インターネットの登場は、既存の通信のあり方、産業、社会と国家のあり方に大きな変化をもたらした。またインターネットが大きな位置を社会において占めると共に様々な問題も発生してきている。こうした社会の変化やインターネットの問題点について考察する。

学修目標 (= 到達目標)

インターネットが社会にどのような変化や影響を与えているか・どのような問題が起こるかを理解し、インターネットの活用に資する思考力を身につけることを目標とする。

内容

この授業は講義を基本として時事問題を映像で見たり、現代社会の問題を取り上げながらインターネット社会の理解を深めていく。

1. オリエンテーション インターネット社会とは
2. インターネット社会の可能性 インターネット社会の未来、電子図書館、IoT
3. インターネット社会の危険性 インターネット依存症、知識の断片化・希薄化、情報漏えい
4. インターネットの影響1 ネットとメディア テレビはなくなるのか
5. インターネットの影響2 ネットとメディア 新聞はなくなるのか
6. インターネットの影響3 ネットと本、本屋・本はなくなるのか
7. インターネットの影響4 ネットと音楽、CDは売れなくなるのか
8. インターネット社会1 電子取引社会、eコマース・ネットショッピング、経済のグローバル化
9. インターネット社会2 情報無料社会-産業再編、貧者への福音か格差の拡大か
10. インターネット社会のあり方1 セキュリティ、パスワード、個人情報
11. インターネット社会のあり方2 監視社会、監視国家
12. インターネット社会のあり方3 ネットをめぐる法制度、ネットの規制・検閲
13. インターネットとグローバリズム・ローカリズム 国境はなくなるか・地域は結びつくか
14. インターネットと国家・行政 仮想通貨、行政手続の電子化
15. まとめ

ネットと世論形成、ネットにおける炎上等については2年以上履修科目「ネットと世論」において取り上げる予定（時事問題において取り上げる場合もある）

評価

授業での課題（40％）とレポート（40％）、授業への参加度（20％）を総合し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】数回行うリアクションペーパー等の次の回に疑問・意見などに回答する。

授業外学習

【事前予習】事前に予告された項目に関する基礎知識を習得する。（各授業に対して30 - 60分）

【事後学修】授業で学習したテーマについて調べ、自分の視点から意見をまとめる。（各授業に対して30 - 60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業において資料等を用意する。

科目名	国際マスコミュニケーション論		
担当教員名	鈴木 弘貴		
ナンバリング	KJc216		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1に該当する、学科専門選択科目。

概要：「国際マスコミュニケーション」とは、マス・メディアを中心にした国を越えた社会の間のコミュニケーションをいいます。例えば、高校のときに韓国に旅行にいかれた方は、向こうでNHKを見ることが出来るのに驚いたのではないのでしょうか。また、今や日本のマンガやアニメは世界中で人気があるのはよくご存じだと思います。グローバル化の進展に伴い、こうした国際マスコミュニケーションは質・量共に増大しつづけており、それが国家および社会にとってどのような影響を与えているのかを考えるのが本講義の目的です。「国境を越えるマス・コミュニケーションのインパクト」が講義のサブタイトルです。

取り扱うテーマは、前半は、「国際マスコミュニケーション」を議論していく上で必要な、基本的な事象や概念について、具体的な事例を交えながら解説していきます。取り扱う主な事象・概念は、文化帝国主義、情報主権、国境を越えるテレビ、集团的帰属意識などです。後半は、ヨーロッパ・北米などにおける具体的な「国際マスコミュニケーション」の状況を紹介しながら、前半で解説した概念の理解を深めていきます。講義の締めくくりでは、現在の日本を含めたアジアを取り巻く「国際マスコミュニケーション」の状況を考えてみたいと思っています。

学修目標：現代における国際マスコミュニケーションの意義と問題点を理解する。

内容

この授業は、映像、インターネットなどを使った講義形式で行い、リアクションペーパーによる教員と受講学生とのインタラクティブなコミュニケーションを随時実施していく。

1	イントロダクション
2	現代の国際マスコミュニケーションの特徴
3	現代の国際マスコミュニケーションの特徴
4	マスコミュニケーションと国民的帰属意識
5	マスコミュニケーションと国民的帰属意識
6	国境を越えるマスコミュニケーション(TV)は何を伝えるのか
7	中間まとめ
8	「国境を越えるマスコミュニケーション」とステレオタイプ
9	「国境を越えるマスコミュニケーション」とステレオタイプ
10	世界情報秩序をめぐる議論と情報主権・文化帝国主義
11	北アメリカにおける国際マスコミュニケーション
12	ヨーロッパにおける国際マスコミュニケーション
13	日韓間の国際マスコミュニケーション
14	アジアにおける国際マスコミュニケーション
15	まとめ

評価

中間テスト（41％）および期末レポート（59％）

総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック：毎授業の初めに、前回提出されたリアクションペーパーに対するコメントを行う。

授業外学習

【事前予習】国際ニュースや国際的なメディアの動きに関心を持つため、新聞やテレビニュースなどマスメディアによるニュースに接する（各授業に対し約60分）

【事後学修】授業で習ったことを、現代におけるニュースなどで確認し、レポートに備えて調べておくこと（各授業に対し約60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】渡辺武達、山口功二、野原仁編『メディア用語基本事典』（世界思想社）

田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』 龍星出版、1996年）

田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』 .世界思想社、2004年）

田中浩編著『EUを考える』 未来社、2011年

玄武岩編『越境するメディアと東アジア リージョナル放送の構築に向けて』 勉誠出版、2015年

科目名	市民メディア論		
担当教員名			
ナンバリング	KJc317		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報伝達のプロではない「市民」が運営するメディアの歴史、種類、目的、影響について学ぶ。

「市民」とは何か。市民の間でプロの手を介さず、自分たちで情報を共有、拡散しようとするのはどうしてか。市民社会についての歴史的、理論的研究を振り返り、それを踏まえて、現在の市民メディアの具体例を検証する。

社会への情報配信に直接かかわるようになった市民のメディア活動を理解する。

内容	
1	授業概要
2	市民メディアの定義
3	市民社会の誕生：近代
4	市民社会の発展：現代
5	日本の市民社会の特徴
6	市民団体 1：行政の下部組織
7	市民団体 2：自主的運動
8	コミュニティ 1：地域密着型
9	コミュニティ 2：地域を超えて
10	コミュニティメディアの役割
11	コミュニティメディアの事例
12	グローバル・シティズン：「地球市民」とは何か
13	グローバル・コミュニティ：課題
14	オルタナティブメディアとしての市民メディア
15	まとめ

評価

中間レポート (40%)、期末レポート (60%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】中間レポートについては授業で総評を行う。期末レポートは希望者にコメントをつけて返却。

授業外学習

【事前準備】主流メディアが伝える社会の出来事に注意する。

【事後学修】市民メディアの視点で社会の出来事について考える。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【推薦書】 林香里『オンナ・コドモのジャーナリズム』岩波書店

【参考図書】 松浦さと子 他 『コミュニティメディアの未来』晃洋書房
伊藤昌亮 『デモのメディア論』晃洋書房

科目名	グローバルジャーナリズム		
担当教員名			
ナンバリング	KJc318		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	上級情報処理士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

学科専門科目「メディア社会」領域の2年以上選択科目として、国際社会での情報の流れについて学ぶ。

「グローバリゼーション」とは一体何を意味するのだろうか。私たちが暮らしている、この「社会」とはどのような関係にあるのだろうか。「グローバリゼーション」は経済分野が先行している現象であるが、この講義では、その「社会」とのかかわりを考える場合にわかりやすい指標となるジャーナリズムのグローバル化について考えていく。

これからの世界を考える上でのキーワードの一つである、「グローバリゼーション」の意味を正しく理解し、来るべき「グローバル社会」の可能性と問題点を各自が考える力を身につける。

内容

1	「グローバル」の意味
2	「グローバル・ジャーナリズム」とはなにか
3	グローバルなニュースの収集
4	グローバルなニュースの伝達
5	グローバルなニュースの選択・解釈1
6	グローバルなニュースの選択・解釈2
7	中間まとめ
8	「グローバル・ジャーナリズム」の実態
9	グローバル・ジャーナリズムの寡頭体制
10	放送のグローバル化がもたらしたもの
11	グローバル・ジャーナリズムへのネットの影響
12	「グローバル・ジャーナリズム」は、誰のためのものか
13	「グローバル・ジャーナリズム」の進展が示唆するもの
14	「グローバル・ジャーナリズム」の可能性
15	まとめ

評価

テスト(40%)、レポート(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】毎日の国際ニュースに関心を持つ。

【事後学修】ニュースの伝えられ方に注意して、国際ニュースを考える。

【参考図書】渡辺武達、山口功二、野原仁編『メディア用語基本事典』（世界思想社）

田中浩編著『現代思想とはなにか - 近・現代350年を検証する』 龍星出版、1996年）

田村、林、大井編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』 世界思想社、2004年）

科目名	ネットと世論		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング	KJc319		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1, 2, 3に該当する。

本科目はマスメディア、ネットメディアなどの役割や影響、社会での利用方法について学ぶ。情報を集め取捨選択し、まとめる力を身につける。現代社会の諸問題に興味を持ち、問題意識を持つなどの力を育成するものである。

科目の概要

ネットと世論、それらが政治・行政に与える影響をアメリカ・日本等の課題・時事問題等に関連付けながら学ぶ。インターネットが世論、政治の決定にどのような影響を与えるかを政治的決定・行政のしくみ・時事問題などを通じて学ぶ。現在の課題（例えば、少子高齢化と福祉、財政赤字、憲法改正、安全保障など）がどのように決められていくか、どのように決めていくべきかを考える。

学修目標 (= 到達目標)

現在の日本の課題を題材としてインターネットと民主政治・政治行政の関連についての基礎知識を修得するのみでなく、その知識を生かしてものごとを把握する力、解決策を論じる力を身につけることを目標とする。

内容

講義を基本として時事問題を映像で見たり、現代社会の問題を取り上げながら理解を深める。

- 1 ガイダンス 現在の日本を取り巻く諸問題と政治行政、ネットと世論
- 2 メディアと世論 世論とは、マスメディアと世論、インターネット
- 3 中央省庁 1府12省庁、中央省庁と地方自治体、政府の「嘘」とその影響、財務省佐川理財局長答弁問題、厚生労働省不適切統計調査問題
- 4 政策決定システム 選挙と政権交代、与党と野党、官僚制度、長期政権と1年で交代する政権の違い、法律・予算ができるまで現代、政治のしくみ-国会・内閣、議院内閣制・大統領制
- 5 財政赤字 財政赤字、福祉国家論と小さな政府、財政危機と社会保障、地方自治体と社会保障
- 6 アメリカ政治 トランプ大統領、安全保障、アメリカ・ファースト、保護主義、移民、日米関係
- 7 現代日本政治の諸問題 安倍政権の目指すもの-憲法改正、安全保障、国際協力、アベノミクス
- 8 前半まとめ
- 9 SNSと世論 フェイスブック、ミクシィ、電子掲示板、トランプ大統領とツイッター
- 10 インターネットと選挙 マスメディアと選挙、「ネット選挙」解禁、ネットの影響力、ネット選挙と法規制、SNSなどによる世論操作の可能性、「ロシア疑惑」
- 11 ネットによる世論形成の問題点、誹謗中傷、炎上と「正義の鉄槌」、皆にうけるための極論、当事者による世論操作、国家・政府の影響力
- 12 ネット世論と個別課題-憲法改正、社会保障、安全保障、ネットと政策評価、ネトウヨ

- 13 ネット世論の限界と可能性-匿名性と責任、ネット世論がどこまで世論を反映するのか、政治行政のプレイヤーへの影響、情報発信による影響力-ウィキリークス・ウィキペディア、ネットメディア、個人の情報発信の機会提供、告発場所の提供
- 14 ネット世論と評価 ネットと経済・経営、ネットの評価、口コミ、その実態、問題、ネットと人事評価、ネットと個人情報、インターネット・リテラシー
- 15 後半まとめ

評価

小試験とレポート課題など(70%)、平常点(30%)の総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】数回行うリアクションペーパー等の次の回に疑問・意見などに回答する。

授業外学習

【事前予習】事前に予告された授業テーマについて調べ基礎知識を修得しておく。(各授業に対して30 - 60分)

【事後学修】授業で学習した授業テーマについて自分の視点からの意見・考え方をまとめる。(各授業に対して30 - 60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

レジュメ・資料などを配布する。

科目名	メディア分析		
担当教員名	加藤 亮介		
ナンバリング	KJc420		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

メディアコミュニケーション学科の選択科目であり「メディア分析I」の理解を踏まえ、

本科目「メディア分析」ではコンテンツとして芸術表現を対象とした分析を学ぶ。

科目の概要

芸術表現は、視覚、聴覚、様々な感覚器官を対象とした情報をもつ。

本講義では、特定の芸術作品を数点扱いながら、そこにある意図、表現手法についての読み解きをおこなっていく。

学修目標 (= 到達目標)

芸術作品の詳細な読み解きが行えるようになること。

内容

1	映画研究1(作品意図とシナリオ)
2	映画研究2(演出表現と技術)
3	アニメーション研究1(作品意図とシナリオ)
4	アニメーション研究2(演出表現と技術)
5	文学研究1(作品意図とシナリオ)
6	文学研究2(作品意図とシナリオ)
7	神話研究1
8	神話研究2
9	音楽研究1
10	音楽研究2
11	ビジネス研究1(テレビCM・動画広告を中心に)
12	ビジネス研究2(ウェブサービスを中心に)
13	ディスカッション1
14	ディスカッション2
15	まとめ・総括

評価

出席50%課題・提出物等50%、計100点満点中、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】課題消化

【事後学修】日常触れているコンテンツへの応用を考える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

科目名	政治とメディア		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング	KJc421		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科学位授与方針 2, 3 に該当する。

2年生以上対象の選択科目として、政治についての情報の流れについて学ぶ。

人々が政治についての情報を入手する方法は色々ある。その中でも、職業として政治にかかわる人々(政治家、官僚)も、素人として政治に参加する人々(有権者)が最近特に注目しているのがマスメディアとインターネットメディアである。授業では、この2つを取り上げ、それぞれの特徴や問題点を議論する。また、情報のグローバル化が政治コミュニケーションに及ぼす影響についても考察する。

人々がメディアを通じてどのように政治情報を発信、受信しているか、発信している側の意図は何か、それを受信する側は何を感じるかなど、政治コミュニケーションの現状を理解する。

内容

この授業は講義を基本とし、ディスカッション、ディベートを取り入れながら、学びを深めていく。

1	政治コミュニケーションとは何か
2	発信者と受信者の関係(1): 直接対話
3	発信者と受信者の関係(2): 間接対話
4	マスメディアの自由
5	マスメディアの制約
6	マスメディアと世論
7	インターネットメディアの発展
8	インターネットメディアの影響力
9	メディアの政治的影響
10	政治参加の方法としてのメディア(1): 選挙キャンペーン
11	政治参加の方法としてのメディア(2): 政治的動員
12	選挙報道
13	政治コミュニケーションの国際比較(1): 欧米諸国
14	政治コミュニケーションの国際比較(2): アジア諸国
15	まとめ

評価

レポート(50%)、試験(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートの総評は授業で発表、希望者には個々のコメントをつけて返却

授業外学習

【事前予習】マスコミやネットで伝えられる政治ニュースをフォローし、記録する。(各授業に対して20分)

【事後学修】授業で説明された分析的視点からニュースを分析し、A 5 1 枚にまとめる。(各授業に対して30分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】蒲島郁夫他 『メディアと政治』有斐閣アルマ 2007年

【推薦書】遠藤薫 『間メディア社会における世論と選挙』東京電機大学出版局 2011年

【参考書】平田オリザ、松井孝治 『総理の原稿』岩波書店 2011年

科目名	情報デザイン論		
担当教員名	川瀬 基寛		
ナンバリング	KJc422		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1、2に該当する。

本科目はメディアコミュニケーション学科の専門科目であり、主に情報をデザインする手法で「思考力」を養い、アクティブラーニングによるグループワークでコミュニケーションと情報デザインの関わりを学修する。

科目の概要

情報デザインの歴史、アフォーダンス、Web、ソーシャルメディア、インフォグラフィックスなど、膨大な情報を整理し正確に伝える方法やコミュニケーションとの関わりを学習する。また、ストーリーテリングとアクティブラーニングを取り入れた「体験をデザインする」グループワークを実施する。

学修目標 (= 到達目標)

- ・情報を整理し正確に伝える方法の理解
- ・コミュニケーションと情報デザインの関わりの理解
- ・ストーリーテリングを用いた情報デザインの手法の理解
- ・情報をデザインするための思考力の一つである「デザイン思考」の獲得

内容

進行具合により内容を変更する場合があります。

後半はGW (グループワーク) が増えるため、欠席をしないように心がけてください。

1	イントロダクション
2	情報デザインとは何か？
3	情報デザインの歴史
4	情報デザインの活用
5	社会と情報デザイン
6	組織と情報デザイン
7	情報デザインのプロセス 2
8	情報デザインのプロセス 2
9	ユーザ調査のための手法
10	コンセプトのための手法
11	視覚化のための手法
12	ワークショップ 1
13	ワークショップ 2
14	ワークショップ 3
15	まとめ、発表

評価

毎回のリアクションペーパー（15%）、授業内課題（20%）、グループワーク・プレゼンテーション（50%）、授業参加度（15%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーの意見や質疑応答などを授業の最初に実施し、より理解を深めた学習ができるようにする。

授業外学習

【事前準備】事前資料が必要な場合は準備しておく。（各15～30分）

【事後学修】課題やグループワーク時の課題がある場合は期限内に提出するために準備する。（各30～60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じてプリントを配布

【推薦書】授業内で提示

【参考図書】授業内で提示

科目名	地域メディア論		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング	KJc323		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針2に該当する。

大都市圏では全国紙(新聞)、キー局(テレビ)がマスメディアの総称と受け取られがちだが、地方にあっては地方紙・地域紙や地元テレビ・ラジオ局など地域メディアの影響力が強く、地域の世論形成を担い、生活必需品の特徴を有する。地方創成が課題に上がるなかで、地域メディアを多方面から学び、最終的にはメディアが地域社会で果たす役割を理解する。

科目概要

活字メディアは地方紙や地域紙、放送メディアは地元放送局を全国紙やキー局と比較しながら現状、役割、将来像を理解する。さらにインターネットを活用した地域メディアの取り組み事例を見ながら、ネット時代のメディアの姿を理解する。

学修目標

1. マスメディア全般の現状と将来像を理解する。
2. 地域メディアが人々の生活にどのような影響を与えているかを理解する。
3. ネット時代の地域メディアの役割を学ぶ。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク・ディスカッション、情報や資料の収集の方法を学びながら地域メディアの理解を深めていく。

1	授業ガイダンス、地域の定義、メディアの定義
2	メディア全般の理解 紙媒体を中心に
3	メディア全般の理解 放送メディアを中心に
4	メディア全般の理解 インターネットを中心に
5	地域メディアと愛郷心の相関関係
6	首都圏のメディア状況と文化性・県民性の相関関係
7	地方紙の展開に見る地域メディア論
8	地方紙の展開に見る地域メディア論
9	地域放送局の展開に見るメディア論
10	地域放送局の展開に見る地域メディア論
11	インターネットを活用した地域メディア
12	インターネットを活用した地域メディア
13	インターネットを活用した地域メディア
14	地域メディア論まとめ 存在意義とジャーナリズム性の確保
15	レポート作成

評価

授業への参加度50%、毎回のリアクションペーパー等30%、課題・レポート作成20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回のリアクションペーパーをチェックし、コメントを添えて次回以降の授業で返却する。

授業外学習

【事前準備】次回授業で取り上げるメディアの特徴、課題をインターネットで調べまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で取り上げたテーマと事前調べを基に新聞、書籍などを使って整理する、（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。毎回の授業でテーマを深めるのに必要な資料を配布する。

【推薦図書】「新聞のある町 地域ジャーナリズムの研究」（四方洋、清水弘文堂書房）「地方紙の眼力」（共著、農山漁村文化研究会）

【参考文献】必要に応じて紹介する。

科目名	教育メディア論		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング	KJc424		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

教育分野とメディアに関わる内容となるので、教職履修者、あるいは教育分野でのメディア活用に興味関心のある学生に向いている。

科目の概要

学校教育・生涯学習などの教育分野では、新しいメディア活用に関する研究やメディアリテラシー育成のための教育が実践されている。例えば、インターネットの活用、デジタル教科書、電子黒板、e-ラーニング、クラウドサービスの活用などがある。またICTの活用に伴い、メディアリテラシー教育なども重要な課題である。本科目では、教育メディアの歴史からはじめ、情報機器端末、アプリケーション、メディアリテラシー教育、最新のICTを利用した教育環境をテーマとして取り上げる。

また、ICTを活用した簡単な教材作成の方法と開発を行い、教育とメディアへの理解を深める。

学修目標

- ・教育とメディアの関係やそれぞれの特徴が理解できる。
- ・メディアや情報に関わる教育の現状について考察を深めることができる。
- ・教材の開発を通して、ICTを活用した教育の理解を深める。

内容

講義による解説とグループでの課題解決を実施する。

1	オリエンテーション
2	メディアとメッセージ
3	教育モデルとメディア
4	教育とメディアの歴史と関係
5	子どもと情報メディア (1)
6	子どもと情報メディア (2)
7	情報教育とメディアリテラシ (1)
8	情報教育とメディアリテラシ (2)
9	メディアを活用した新しい学習 (1)
10	メディアを活用した新しい学習 (2)
11	メディアを活用した教材の設計
12	メディアを活用した教材の開発 (1)
13	メディアを活用した教材の開発 (2)
14	教材の評価
15	まとめ

評価

各テーマ毎にレポート課題（3～4）を合計60%と、教材開発40%とし、総合評価60%以上で合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に提供するWeb教材での予習(60分)

【事後学修】事後に実施する課題レポートの実施(60分)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に指示する。

科目名	マンガ・アニメ文化論		
担当教員名	仁藤 潤		
ナンバリング	KJd125		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学科ディプロマポリシー 1、2、3 に該当する。マンガ、アニメ、映画に関心のある学生向けの内容である。手塚治虫を軸とした国内外の文脈について研究を行う

科目の概要

手塚治虫を軸としたマンガ、アニメ等の国内外の文脈について研究を行う

学修目標 (= 到達目標)

今まで知らなかったマンガ、アニメ、映画の世界に触れ、最終発表会で研究発表を行う。特に、ディズニー、手塚治虫を軸にした理解を深める

内容

1	ガイダンス
2	世界の短編アニメーション
3	日本の短編アニメーション
4	ディズニーアニメーション 1
5	ディズニーアニメーション 2
6	ディズニーアニメーション 3
7	ピクサーアニメーション トイストーリー モンスターズインク カーズ 他
8	日本アニメ・マンガ史 1 手塚治虫 他
9	日本アニメ・マンガ史 2 赤塚不二夫 他
10	日本アニメ・マンガ史 3 スポ根マンガ 魔法少女 他
11	日本アニメ・マンガ史 4 現代のアニメとマンガ
12	最終研究発表会
13	最終研究発表会
14	最終研究発表会
15	最終研究発表会 総評

評価

平常点(最大30点) : 授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

最終課題(最大50点) : 理解度・完成度を評価する。

コメントシート(最大20点)：課題の意図をしっかりと理解しているかを評価する。
フィードバック・課題に対して、全体にコメントします・最終課題に対して、個別にコメントします。

授業外学習

「事前学修」授業のテーマに対して、リサーチを行い予習を行う。90分

「事後学修」授業の内容に対して、リサーチを行い自分の言葉でまとめる。90分

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない

【推薦書】授業内で提示

【参考図書】授業内で提示

科目名	メディア文化論		
担当教員名	竹野 真帆		
ナンバリング	KJd126		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科のDP2

科目の概要

現代においては「メディア」は私たちの精神もしくは身体の一部と化している。かつてメディアとは、私たちに様々なもの（意味やメッセージ）を届ける「乗り物」であると思われてきた。CMでもコミックでも、新聞や小説や映画やインターネットなどなどであっても、その基本的な認識は変わっていないように思われる。つまり、「メディアはメッセージ」であり、メディアとは単なる情報伝達の道具だと考えられ、もちろん現代においてもなおその文言には十分に意義があり、また、正しいが、現代においては、「メディアはメッセージであるが、単なるメッセージではない」という方がより正しい。本講義においては、この「単なるメッセージではない」という部分が実際に何を意味しているのかを様々な現代的なメディアの事例を学び、考える。

学修目標

メディアとは何であることを学ぶことを通して、講義で取り上げるテーマについて広く理解することを第一の目的とする。また、メディア分析の結果を考察し、望ましいメディアのありかた、もしくは、社会のあり方について提案できる力を得ることを目標とする。

内容

この授業は講義を基本とし、最新の事例と共にいくつかの映像を見ながら学びを深めていく。

1	メディアとは何か：マクルーハン『メディア論』を通して
2	メディア論の背景 メディアと身体
3	メディア論の背景 メディアと文字
4	マスコミと文化：新聞・雑誌・テレビなどのマスコミの与える文化的価値観への影響
5	SNSと文化：SNSと文化的価値観との関係について考える
6	筆記試験
7	まとめ
8	娯楽系メディアと文化：映画は文化的価値観にどのような影響を及ぼしているのか
9	娯楽系メディアと文化：コミックは文化的価値観にどのような影響を及ぼしているのか
10	娯楽系メディアと文化：アニメは文化的価値観にどのような影響を及ぼしているのか
11	娯楽系メディアと文化：ゲームは文化的価値観にどのような影響を及ぼしているのか
12	メディア分析の基礎理論：解釈学概観
13	メディア分析の基礎理論：映画映像論
14	筆記試験
15	まとめ

評価

平常点20%、筆記試験80%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】日常的にメディアの観察と収集に励むこと。文化現象を観察すること。（各授業に対して30分程度）

【事後学習】授業で紹介したメディアや文化現象を観察すること。（各授業に対して30分程度）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要な教材については授業内で適宜、説明します。

科目名	音楽表現論		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング	KJd127		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

私たちにとって最も身近な音楽である「ポピュラー音楽」。しかしインターネットの急速な発展と普及によって音楽産業は大きな影響を受けており、著作権法等の法整備も状況に追いついていないのが現状である。これらの問題に対して音楽をめぐる状況を総合的、体系的に分析し、どうすればいいのかについて考える。当科目は学科ディプロマポリシーの -3,4 および -1.2に該当する。

科目の概要

日本の音楽産業の仕組みと歴史、現状と問題点。音楽著作権と著作権ビジネスについて。公共財としての音楽について考える。ロックを中心にしたポピュラー音楽の歴史。音楽とテクノロジー。Jポップのヒット曲分析、等々。適宜グループワークやディスカッションを取り入れつつ授業を行う。

学修目標 (= 到達目標)

音楽などの文化が、経済、社会、テクノロジーとどのように関係しているのかを理解し、メディアリテラシーの向上をはかる。

内容

この授業は講義を中心に、ディスカッションを取り入れつつ学びを深めていく。

進度については、受講生の理解度に応じて柔軟に運用することがあります。

1	ガイダンス
2	日本の音楽産業の現状と問題点
3	日本の音楽産業の構造
4	音楽のデジタル化
5	日本における音楽ビジネスの歴史
6	音楽著作権と音楽ビジネス
7	公共財としての音楽？
8	ロックとポピュラー音楽の歴史(1)
9	ロックとポピュラー音楽の歴史(2)
10	ロックとポピュラー音楽の歴史(3)
11	音楽とテクノロジー(1)
12	音楽とテクノロジー(2)
13	日本のポピュラー音楽の世界進出の可能性について
14	2000年代の日本のヒットソングの楽曲分析
15	まとめ

評価

授業への参加度40%、最終レポート60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】次回授業の該当項目について下調べをし、疑問点を箇条書きで列挙する（各授業に対して40分）。

【事後学修】不明な用語等について調べ、明らかにする（各授業に対して40分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】ポピュラー音楽の社会経済学 高増 明 著 ナカニシヤ出版

【参考図書】随時紹介

科目名	エンターテインメントメディア論		
担当教員名	谷 洋子		
ナンバリング	KJd228		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科のディプロマシーポリシー 2 に該当する。

「ディズニー研究」と聞いて何を思い浮かべるかは人によって違う筈ですが、この科目では、おもにディズニー映画作品を研究します。映画と原作との比較、それぞれの作品のヒロイン像と時代背景から「ディズニーとは何か」を探る研究の方法を学び、実践する授業です。

科目の概要

ディズニーの映画作品と原作を比較し、その違いを探ります。また、それぞれの作品に取り上げられたヒロインの特徴を捉え、それが作られた時代の背景とどのようにつながっているのかを探ります。研究の手法を学んだあと、履修生にもグループを組んで研究発表を行ってもらうため、積極的に学び、調べ、グループ活動にかかわる姿勢が求められます。

学修目標 (= 到達目標)

1. ディズニー映画とその原作の違い、その意図を知る
2. 作品が取り上げられた時代背景と映画のヒロイン像のつながりを理解する
3. 文化研究の方法を学び自ら実践できるようになる

内容

(注意) この科目は研究発表を行うため、履修希望者の数によっては履修制限をかける可能性があります。

ディズニー映画とその原作を比較し、変更の意図を探る。また、作品が生まれた時代背景との関連について考える。最初の数回の講義で研究の方法を紹介後、履修生自身が、リサーチ・研究発表を行う。(履修人数によっては、グループでの研究、発表となる可能性があります。)

1	ガイダンス・ Disney研究とは
2	論文の読み方
3	『シンデレラ』 - 原作を読む
4	『シンデレラ』 - 映画と原作
5	文献の探し方
6	研究発表準備 グループ分け・テーマ選択・分担決め
7	研究発表準備 グループ活動及び進捗報告
8	研究発表準備 グループ活動及び進捗報告
9	研究発表準備 グループ活動及び進捗報告
10	研究発表準備 グループ活動及び進捗報告
11	研究発表 『アラジン』 (仮)
12	研究発表 『ポカホンタス』 (仮)
13	研究発表 『塔の上のラプンツェル』 (仮)
14	レポート報告会
15	まとめ

評価

発表40点、レポート40点、授業の参加態度20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

提出課題は、評価、コメントをつけ返却する。学生の各発表については、教員、受講者ともに授業中にコメントする。

授業外学習

事前準備】 テーマとなる映画作品を事前に見ておくこと(2時間) 担当する発表の準備(受講期間中計30時間程度)

【事後学修】 講義、発表のポイントをノートにまとめる(30分) 論文のアウトライン作成、物語作品あらすじのまとめ(受講期間中数回 1課題につき4時間程度)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 授業内で指示する

【推薦書】 授業内で紹介

【参考図書】 授業内で紹介

科目名	サブカルチャー論		
担当教員名	仁藤 潤		
ナンバリング	KJd229		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 学科ディプロマポリシー 1、2、3 に該当する。

科目の概要 サブカルチャーとは何なのか。時代背景を踏まえて、若者が作り出した文化について研究を行う。

学修目標 1. サブカルチャーとは何かを理解する事ができる。2. 授業内容に対して、自分の意見を表現することができる。3. 自分の選んだテーマに対してリサーチを行い自分の言葉で発表することができる。

内容

1	サブカルチャーとは何か
2	50年代のサブカルチャー 戦後のサブカルチャー
3	50年代のサブカルチャー エルビスとロックンロール、太陽族
4	60年代のサブカルチャー 大島渚とヌーヴェルバーグ
5	60年代のサブカルチャー 唐十郎と新宿
6	70年代のサブカルチャー 深夜ラジオと若者文化
7	70年代のサブカルチャー 雑誌と音楽の文化
8	80年代のサブカルチャー ポスト消費社会、 YMO
9	80年代のサブカルチャー 「おいしい生活」とは
10	90年代のサブカルチャー サブカルチャーからサブカルへ
11	2000年台のサブカルチャー ネット社会とグローバリズム
12	最終研究レポート作成
13	研究発表会 1
14	研究発表会 2
15	研究発表会 3

評価

平常点(最大30点) : 授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

最終課題(最大50点) : 理解度・完成度を評価する。

コメントシート(最大20点) : 課題の意図をしっかりと理解しているかを評価する。

フィードバック・課題に対して、全体にコメントします・最終課題に対して、個別にコメントします。

授業外学習

「事前学修」授業のテーマに対して、リサーチを行い予習を行う。90分

「事後学修」授業の内容に対して、リサーチを行い自分の言葉でまとめる。90分

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

参考

必要な文献については授業内で適宜、説明する予定です。

科目名	映像表現論		
担当教員名	川瀬 基寛		
ナンバリング	Kjd230		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1、2に該当する。

本科目はメディアコミュニケーション学科の専門科目であり、映像メディアに関する技術・表現手法を学習し、映像コンテンツの捉え方を学修する。

科目の概要

実際に作品を鑑賞し視点を変えることで、映像メディアの原理や映像技術の発達について学び、映画の文法や手法、映像表現の特徴や可能性を探求していき、今後の自主活動や映像作品制作活動に活かす。

学修目標 (= 到達目標)

日本ならびに諸外国における様々な映像作品 (映画・ドキュメンタリー・ミュージックビデオ・ビデオアート・CG・アニメーション・テレビニュース映像など) の鑑賞を通じて映像リテラシーを高め理解力を養う。

内容

進行具合により内容を変更する場合があります。

1	イントロダクション：映像とは何か？～技術的な側面から
2	映画の誕生：リュミエールとメリエス
3	映画技法 1 フォトグラフィ
4	映画技法 2 ミザンセヌ 1
5	映画技法 3 ミザンセヌ 2
6	映画技法 4 ミザンセヌ 3
7	映画技法 5 編集
8	映像表現 1 ミュージックビデオの世界 1
9	映像表現 2 ミュージックビデオの世界 2
10	映像表現 3 ミュージックビデオの世界 3
11	映像表現 4 ビデオアート・実験映像の世界
12	映像表現 5 映画のタイトルバック
13	映像表現 6 アートアニメーション
14	映像表現 7 宗教映画と美学
15	映像表現 8 動画投稿サイトとMAD動画、まとめ

評価

期末レポート (55%)、毎回のリアクションペーパー (30%)、受講参加度 (15%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業のリアクションペーパーの意見を紹介することで、様々な視点から映像を読み

解くヒントとして提示し、理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】次回の関連事項やキーワードを確認し、学習すべき内容を各自で確認してまとめておく。(各15~30分)

【事後学修】授業で配布された資料を良く読み復習するして、学習した内容をしっかり身につける。(各30分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要に応じてプリント・資料を配布

【推薦書】授業内で提示

【参考図書】授業内で提示

科目名	ナレーション・朗読		
担当教員名	好本 恵		
ナンバリング	KJd331		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

散文や韻文をことばによる芸術作品と捉え、選ばれたことばの響きや調べ、その表現技法及び表現効果を探る。「朗読」は声で作品の世界を聞き手に届ける表現行為である。前提として作品に対する深い解釈が必要となる。音声表現の基礎を学びながら、さまざまな作品を朗読する。

科目の概要

随筆・小説・昔ばなし・詩・短歌・俳句などの作品を深く読み、解釈、鑑賞する。どう朗読したら作品の世界を聞き手に届けられるか、グループワークも取り入れながら考え実践していく。ブックレポートの提出と発表があり、事前学習も必要である。意欲のある学生の参加を希望する。

学修目標

作品を深く読み込み、作品を解釈する力、声で伝える能力を身につける。さらに、日本語への関心を高め、ことばに対する感性を磨く。

内容

1	「朗読」の基礎と魅力
2	伝わる読みのポイント
3	画面にあわせたナレーション
4	画面にあわせたナレーション
5	エッセーや小説を朗読する
6	エッセーや小説を朗読する
7	ブックレポートの発表
8	絵本の読み聞かせ
9	昔話の魅力
10	古典作品を朗読する
11	古典作品を朗読する
12	詩を朗読する
13	短歌や俳句を朗読する
14	ブックレポートの発表
15	まとめ

評価

ブックレポートの内容(40%) まとめのテストと発表(40%) 日頃の授業への参加意欲(20%)を総合して評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】作品の背景や内容について調べ、熟読し、下読みをして授業に臨む。

【事後学修】学んだことを発展させ、課題に取りくむ。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使わない。プリントを配布する。

【参考図書】授業中に紹介する。

科目名	映像文化論		
担当教員名	江藤 茂博		
ナンバリング	KJd332		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針2に該当する。本科目は、映像芸術文化の成立と展開への深い理解をもとに、研究・批評的な観点による対象の洞察力を育てながら、現代の芸術文化への理解を確かな言葉で表現できることを目標とする科目である。

科目の概要

三部構成で、最初に映像文化史をジャンル別に資料を提示しながら講義する。次に、日本のアニメーション史の資料と話題を中心にした映像文化史を講義する。最後に、筒井康隆の小説「時をかける少女」の映像化作品を取り上げることで、研究・批評の方法を案内する。

学修目標 (= 到達目標)

映像表現の物語の歴史に関する知識と研究・批評の方法を身につけてもらう。

内容

この授業は、講義を基本に、資料・作品紹介、授業内文章表現ワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	映像表現の歴史を知る
2	写真表現の文化史を知る
3	漫画とアニメーションの関係を考える
4	映画と文学の関係を考える
5	テレビ文化とゲーム文化を知る
6	アニメの映像文化1 出発期の日本アニメーション史
7	アニメの映像文化2 東映アニメーションの時代
8	アニメの映像文化3 テレビアニメーションの登場
9	アニメの映像文化4 アニメブーム第一期と第二期
10	アニメの映像文化5 ジブリのアニメ映画
11	アニメの映像文化6 漫画・ゲーム・ライトノベルとアニメ
12	映像と文芸1 時をかける少女とテレビドラマの歴史を知る
13	映像と文芸2 時をかける少女と映画の歴史を知る
14	映像と文芸3 時をかける少女とアニメの歴史を知る
15	まとめ 映像文化論の可能性

評価

授業への関心・意欲（20パーセント）、授業内での参加度（20パーセント）、小テスト（20パーセント/直後の授業でコメント）や小レポート（40パーセント/直後の授業でコメント）を合計100点として、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前準備】指示された作品を読む・観ること
- 【事後学修】指示された作品を読む・観ること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】特に指定しません
- 【推薦書】授業内で指示します
- 【参考図書】講義担当者の著作に映像文化関係のものが幾冊かあります

科目名	ファッションメディア論		
担当教員名	藤井 敦子		
ナンバリング	KJd333		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格/美しさはパワーであり、誰の中にもあるもの。新旧様々なハイファッションに触れることで、確かな美意識を養い、自分の美しさを探求、発見する。

科目の概要/モデル歴30年の藤井敦子が、これまでの経験で培った知識を活用し、美しい姿勢、しぐさ、歩き方、笑顔など、日常生活にすぐ取り入れられる美しさの意識を伝える。また、一流のハイファッションを学ぶことで、美意識を高め、自分自身を磨いていく。

*一般的なファッションメディア論とは異なり、藤井敦子流ファッションメディア論になる。

学修目標 (=到達目標) /4か月間授業で学んだことを日々の中で意識することで、ファッションを通して、自分自身に向き合い、自分の個性に気づく。美意識を高め、表現力を磨き、自分らしい美しさを発見し、より洗練された女性を目指す。

授業内容については、生徒の学習の様子、ゲストのスケジュールなどを考慮しながら、適宜変更するものとする。

内容

1	ガイダンス / 藤井敦子プレゼンテーション - 自己紹介・15回授業の流れ
2	2019年春夏、秋冬コレクション トレンド解説 姿勢、笑顔レッスン
3	モデルの美とライフスタイル 姿勢、笑顔レッスン
4	ゲスト講座 (仮)スタイリストによる、今年のおすすめファッション(変更有)
5	ファッションの歴史 1 姿勢、笑顔レッスン
6	ファッションの歴史 2 姿勢、笑顔レッスン
7	ゲスト講座 (仮)コスメジャーナリストによる、20代女子へのおすすめコスメ(変更有)
8	ブランドストーリー1 シャネル、ルイヴィトン、エルメス、サンローラン、ジバンシー等
9	ブランドストーリー2 シャネル、ルイヴィトン、エルメス、サンローラン、ジバンシー等
10	ゲスト講座 (仮)ヘアメイクによる、洗練された女性になるためのメイク講座(変更有)
11	自分のチャームポイント、似合うファッション、色の発見
12	体型別、着こなしテクニック
13	ゲスト講座 (仮)カメラマンとのコラボで、美しく写真に写るコツ(変更有)
14	課題:私スタイルのプレゼンテーション
15	課題:私スタイルのプレゼンテーション

評価

平常点40%（4回欠席ペナルティー、5回欠席履修ならず）授業態度20%、プレゼンテーション20%、課題提出20%、総合評価70点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前準備】毎講義後に翌週の事前準備を指示
- 【事後学修】講義で学んだことの感想レポート提出

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】使用しない
- 【推薦書】授業内で指示
- 【参考図書】授業内で指示

科目名	スポーツメディア論		
担当教員名	飯田 路佳		
ナンバリング	KJd434		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ねらい

メディアコミュニケーション学科DPの2を踏まえた選択科目である。

科目の性格：「身体」「スポーツ」「健康」「文化」「メディア」をキーワードとして、毎回提示されるそれぞれの事象毎に、現状はもちろん、これまでの歴史や背景について学ぶとともに、これからの地域、日本、世界における様々な「スポーツ」や「健康」についての予測もまじえながら、私たちを取り巻く身近な「メディア」について考えていく。

学修目標：科目領域の中で、問題意識を持ち、自ら考えながら身体やスポーツの文化について理解し、確かな力を身につけていくことをねらいとする。

内容

グループワークやディスカッションを通して、情報を収集、発信する力を発展させる。取り上げる内容としては、「健康」「ダンス」「ラジオ体操」「高校野球」「オリンピック」「ワールドカップ」「駅伝とマラソン」...など、様々なトピックを取り上げ、「女性」との関係、「メディア」との関係なども交えながら、広い視野を獲得していく。知識を得るとともに、傾聴力、発信力なども自然に身に付くよう、前向きな取り組み方を期待する。

1	オリエンテーション
2	「体育」と「スポーツ」の違い
3	「養生」から「健康」へ (養生訓の健康観)
4	「身体」と「文化」1 (健康政策とメディア)
5	「身体」と「文化」2 (現代の健康を考える)
6	国家イベントからビジネスイベントへ1 人種差別・性差別
7	国家イベントからビジネスイベントへ2 アマチュアとプロ
8	オリンピックのビジネス化1 世界のスポーツブランド
9	オリンピックのビジネス化2 スポーツのグローバル化
10	オリンピックのビジネス化3 スポーツイベントと経済
11	メディアとスポーツのルール
12	ネットワーク社会と身体から考えるスポーツの可能性
13	メディアのスポーツへの影響と未来
14	まとめ1
15	まとめ2

評価

1対多の講義形式だけでなく、数回のグループワークを通じて、問題を発見し、明確に提示しながら、理解していく形式をとるため、特に遅刻や欠席については、明確に対応する。従って、平常点および授業参加の姿勢 (40%)、毎回のリアクションペーパー (25%) や提出物状況 (15%) プレゼンテーション (20%) 等を総合的に判断し、6割以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】シラバスを予め確認し、授業で扱う内容の前提となる事項に関連する資料に目を通し、レディネスを高める（60分）

【事後学修】授業で学修した内容を確認し、指定された様式に従い学修内容をまとめる（60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で適宜指示する。

科目名	メディアアート論		
担当教員名	川瀬 基寛		
ナンバリング	KJd435		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

本科目はメディアコミュニケーション学科の専門科目であり、主にメディアアート分野における歴史・表現の多様性を見ることで、表現力と思考力を養う。

科目の概要

メディアアートの歴史や作品を振り返り探求することで、メディアアートとコンピュータ、メディアアートと思想、情報社会におけるアートとの関係性を学習する。

体験・体感を通じて理解を深めるため、3～4回程度の臨地授業（学外）を実施する。

学修目標（＝到達目標）

- ・メディアアートの歴史についての理解
- ・メディアアートと現代美術・ビデオアートの関係性の理解
- ・メディアアートとコンピュータの関係性の理解
- ・メディアアートと思想の関係性の理解
- ・情報社会におけるアートとの関係性の理解

内容

進行具合により内容を変更する場合があります。

グループワークで学習する場合があります。

教室外（学外）での授業実施もありますが、時期は未定です。

歴史資料として作品画像・映像・書籍を鑑賞することがあります。

1	イントロダクション～メディアアートとは
2	メディアアートの流れ 1
3	メディアアートの流れ 2
4	メディアアートの流れ 3
5	メディアアートの諸相 1
6	メディアアートの諸相 2
7	メディアアートの諸相 3
8	メディアアートの諸相 4
9	メディアアートの諸相 5
10	メディアアート表現の多様性 1
11	メディアアート表現の多様性 2
12	メディアアート表現の多様性 3

13	情報社会におけるアート1
14	情報社会におけるアート2
15	まとめ

評価

毎回のリアクションペーパー（15%）、ミニレポート（30%）、課題レポート（40%）、授業（学外の隣地授業含む）参加度（15%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーの意見や質疑応答などを授業の最初に実施し、より理解を深めた学習ができるようにする。

授業外学習

【事前準備】事前調査が必要な場合は準備すること。（各30～60分）

【事後学修】課題があれば期限内に作業して提出すること。（各60～90分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じてプリントを配布

【推薦書】授業内で提示

【参考図書】授業内で提示

科目名	翻訳文化論		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング	KJd436		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科学位授与方針 1 , 3 に該当する。

学科専門科目「メディア文化」領域の2年次以上選択科目として、国際社会の全体像を理解する。

国際問題を、国際社会という舞台に現れる登場人物 (アクター)、出来事 (ストーリー) という視点でとらえ、20世紀後半の国際問題の流れを再考する。その上で21世紀の国際社会が直面している問題の特徴を探る。同じストーリーでもアクターによって解釈が異なる場合についても検証する。新たな情報手段や科学技術の登場によって、これまでとは異なる国際問題が発生する可能性についても論じる。

国際社会の動きと日本、さらに日本国内で身の回りに起きている出来事との関連性を理解し、国際社会が日本から遠いところで、自分に関係なく動いているのではないことを学ぶ。

内容

この授業は講義を基本とし、ディスカッション、プレゼンを取り入れながら、学びを深めていく。

1	国際社会への視点：日本の役割
2	20世紀の国際関係 (1) : 冷戦の始まり
3	20世紀の国際関係 (2) : 冷戦の終結
4	地域紛争 (1) : 歴史
5	地域紛争 (2) : 現状
6	テロリズム
7	南北問題 (1) : 格差
8	南北問題 (2) : 貧困
9	環境問題 (1) : 地球環境問題
10	環境問題 (2) : 国際協力
11	人権問題
12	国際社会の協力関係 (1) : グローバリゼーション
13	国際社会の協力関係 (2) : リージョナリゼーション
14	21世紀の国際社会と日本
15	まとめ

評価

レポート (50%)、試験 (50%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートの総評は授業で発表、希望者には個々のコメントをつけて返却

授業外学習

【事前予習】個々に選択した国あるいは指導者についてのニュースを集める。(各授業に対して20分)

【事後学修】授業で説明された国際政治の背景に重ねて、選択した国・指導者の動きについてA 5 1枚にまとめる。(各授業に対して30分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】原彬久 『国際関係学講義(第4版)』有斐閣 2011年

【推薦書】渡邊啓貴編 『新版ヨーロッパ国際関係史』有斐閣アルマ 2008年

【参考図書】猪口孝 編 『国際関係リーディングズ』東洋書林 2004年

東大作 『平和構築 - アフガン、東ティモールの現場から』 岩波新書 2009年

科目名	メディアデザイン		
担当教員名	川瀬 基寛		
ナンバリング	KJe137		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1.2.3に該当する

本科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目であり、

コンピュータアプリケーションを活用して、画像編集・加工の基礎を学習する科目である。

「メディアデザイン」「アニメーション制作基礎」「インタラクティブコンテンツ制作」と関連性をもつ。

科目の概要

各個人がコンピュータでアプリケーションを操作しながら、

画像編集・加工ソフトであるAdobe「Photoshop」やドローイングソフトである「Illustrator」の操作方法を学習する。

学修目標

- ・「Photoshop」や「Illustrator」の基本操作ができる。
- ・「Photoshop」や「Illustrator」の活用場面を理解し、紙媒体やデジタル媒体を対象とした基本的なデザインが行える。

履修者数等の都合により一部内容を変更する場合がある。

内容

1	画像編集 (Photoshop) と画像描画 (Illustrator) の基本について
2	画像の編集
3	画像の編集
4	画像の編集
5	画像の編集
6	画像の編集
7	画像の編集
8	--第1回 課題の制作--
9	画像の描画
10	画像の描画
11	画像の描画
12	画像の描画
13	画像の描画
14	画像の描画
15	--第2回 課題の制作--

評価

授業への参画、課題の取り組み状況などの平常点40%、課題の評価点60%で評価する。

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各々、演習室にてAdobe「Photoshop」「Illustrator」の操作にトライしておくことが望ましい。

【事後学修】基本、紙の教材は仕様しない。前回までの内容を復習した状態で授業に参加することが望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

科目名	メディアデザイン		
担当教員名	加藤 亮介		
ナンバリング	KJe137		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1.2.3に該当する

本科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目であり、

コンピュータアプリケーションを活用して、画像編集・加工の基礎を学習する科目である。

「メディアデザイン」「アニメーション制作基礎」「インタラクティブコンテンツ制作」と関連性をもつ。

科目の概要

各個人がコンピュータでアプリケーションを操作しながら、

画像編集・加工ソフトであるAdobe「Photoshop」やドローイングソフトである「Illustrator」の操作方法を学習する。

学修目標

- ・「Photoshop」や「Illustrator」の基本操作ができる。
- ・「Photoshop」や「Illustrator」の活用場面を理解し、紙媒体やデジタル媒体を対象とした基本的なデザインが行える。

履修者数等の都合により一部内容を変更する場合がある。

内容

1	画像編集 (Photoshop) と画像描画 (Illustrator) の基本について
2	画像の編集
3	画像の編集
4	画像の編集
5	画像の編集
6	画像の編集
7	画像の編集
8	--第1回 課題の制作--
9	画像の描画
10	画像の描画
11	画像の描画
12	画像の描画
13	画像の描画
14	画像の描画
15	--第2回 課題の制作--

評価

授業への参画、課題の取り組み状況などの平常点40%、課題の評価点60%で評価する。

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各々、演習室にてAdobe「Photoshop」「Illustrator」の操作にトライしておくことが望ましい。

【事後学修】基本、紙の教材は仕様しない。前回までの内容を復習した状態で授業に参加することが望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

科目名	Webデザイン論		
担当教員名			
ナンバリング	KJe138		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科専門科目のメディアデザインの科目群の科目である。Webデザインに必要な知識を身につけ、社会での利用方法や、メディアの特性を活かす表現能力の基礎について学修する。

科目の概要

Webデザインに関する基礎的な事項を学習する。検定のテキストおよび問題を利用し、問題演習をこなしながら、知識の定着を図る。

学修目標 (= 到達目標)

インターネットとWebページのしくみがわかる

情報の収集、組織化からサイトの設計ができる

HTMLとCSSのしくみを理解し、ページのデザインを考えることができる

デジタルデータの特徴や情報モラルについて理解している

内容

1	インターネットとWebのしくみ
2	Webサイトのコンセプト、情報の収集と組織化
3	情報の構造化と情報へのアクセス
4	Webページの画面構成と素材
5	Webページのテストと修正、メンテナンス
6	HTMLとCSS
7	HTML文書の要素について
8	フォーム
9	CSSレイアウトについて
10	JavaScript, HTML5, CSS3
11	デジタルデータとアナログデータ
12	ソフトウェア
13	入出力装置
14	セキュリティと情報モラル
15	まとめ

評価

毎時間の提出物70%、授業の参加度を30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】テキストを読み不明な点をチェックしておく。0.5コマ相当

【事後学修】問題演習で間違えたものについてもう一度テキストを参照して復習しておく。0.5コマ相当

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】入門Webデザイン,CG-ARTS協会

【推薦書】Webデザイナー検定公式問題集,CG-ARTS協会

科目名	サウンドデザイン基礎		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング	KJe139		
学 科	人間生活学部 (K) -メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。音声編集は映像制作においても必須のスキルです。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase (キューベース) ファミリーの入門版であるCubase Elements 6を導入し、最新のDAW (デジタル・オーディオ・ワークステーション) の世界を体験的に学習します。当科目は学科ディプロマポリシーの -3.4および -3に該当する。

科目の概要...1.DTM (デスクトップ・ミュージック) = コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。2.このサウンドデザイン基礎ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 クラウドにアップロードという手順でDTMの基礎を習得し、メディア活用の基礎から創作、発信までのプロセスを理解する。

学修目標 (=到達目標) ...1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

内容

授業は講義と演習によって行う。

- 第1回 ガイダンス スタートアップ
- 第2回 新規プロジェクトの作成 プロジェクトおよびファイルの管理
- 第3回 コピーとペースト 削除と「元に戻す」
- 第4回 基本的操作の確認 テンポと拍子の設定 トランスポーズ
- 第5回 ドラムセットの入力
- 第6回 スコア課題(1)MIDI入力
- 第7回 スコア課題(2)MIDI入力
- 第8回 スコア課題(3)MIDI入力 強弱表現について
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化 ミックスダウン
- 第10回 オーディオループ素材を活用したトラック制作
- 第11回 創作課題(1)MIDI入力
- 第12回 創作課題(2)MIDI入力 リズムトラック制作
- 第13回 創作課題(3)メロディパートの創作
- 第14回 ミックスダウン 完成したオーディオファイルをクラウドにアップ 試聴
- 第15回 まとめ

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

提出作品の評価60% 授業への参加度40%..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各回の冒頭に前回の内容に関する質疑応答を行う。

授業外学習

【事前予習】授業用サイトの該当箇所を読み、用語などについて下調べをする。

【事後学修】課題のMIDI入力など、授業外の時間を活用して仕上げる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、授業用に設けられたサイトを活用する。

【推薦書】Cubase6 Series 徹底操作ガイド (THE BEST REFERENCE BOOKS EXTREME) 藤本健 著 リットーミュージック

【参考図書】随時紹介

科目名	サウンドデザイン基礎		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング	KJe139		
学 科	人間生活学部 (K) -メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格...コンピュータを使った音楽制作、音声の編集などを実習形式で学びます。音声編集は映像制作においても必須のスキルです。このクラスではDTMソフトの定番、Cubase (キューベース) ファミリーの入門版であるCubase Elements 6を導入し、最新のDAW (デジタル・オーディオ・ワークステーション) の世界を体験的に学習します。当科目は学科ディプロマポリシーの -3.4および -3に該当する。

科目の概要...1.DTM (デスクトップ・ミュージック) = コンピュータを使用した音楽制作の基礎を実習的に学ぶ。2.このサウンドデザイン基礎ではMIDIという規格をつかった音楽制作を中心に学ぶ。MIDI オーディオサンプルデータの利用 オーディオミックスファイルの制作 クラウドにアップロードという手順でDTMの基礎を習得し、メディア活用の基礎から創作、発信までのプロセスを理解する。

学修目標 (=到達目標) ...1.MIDI制作 規制楽曲の楽譜をもとにMIDI 入力をつかった音楽制作の実習2.MIDI入力したデータをオーディオに変換。オーディオミックスダウンの実習
3.オーディオループを利用してサンプルの組み合わせによる音楽制作を学ぶ。
4.MIDI入力、オーディオループに加えてオリジナルメロディを加えることでオリジナル音楽作品制作

内容

授業は講義と演習によって行う。

- 第1回 ガイダンス スタートアップ
- 第2回 新規プロジェクトの作成 プロジェクトおよびファイルの管理
- 第3回 コピーとペースト 削除と「元に戻す」
- 第4回 基本的操作の確認 テンポと拍子の設定 トランスポーズ
- 第5回 ドラムセットの入力
- 第6回 スコア課題(1)MIDI入力
- 第7回 スコア課題(2)MIDI入力
- 第8回 スコア課題(3)MIDI入力 強弱表現について
- 第9回 MIDIデータのオーディオ化 ミックスダウン
- 第10回 オーディオループ素材を活用したトラック制作
- 第11回 創作課題(1)MIDI入力
- 第12回 創作課題(2)MIDI入力 リズムトラック制作
- 第13回 創作課題(3)メロディパートの創作
- 第14回 ミックスダウン オーディオCD作成 試聴
- 第15回 まとめ

一見難しそうに思われるかもしれませんが皆さん楽しみながらクリアしています。しっかりとガイドしますので安心して参加して下さい。ピアノ、電子オルガンなどの楽器経験がなくても大丈夫です。

評価

提出作品の評価60% 授業への参加度40%..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各回の冒頭に前回の内容に関する質疑応答を行う。

授業外学習

【事前予習】授業用サイトの該当箇所を読み、用語などについて下調べをする（各授業に対し40分）。

【事後学修】課題のMIDI入力など、授業外の時間を活用して仕上げる（各授業に対し40分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、授業用に設けられたサイトを活用する。

【推薦書】Cubase6 Series 徹底操作ガイド (THE BEST REFERENCE BOOKS EXTREME) 藤本健 著 リットーミュージック

【参考図書】随時紹介

科目名	写真技術		
担当教員名	谷口 京		
ナンバリング	KJe140		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーションの学習、および実社会で役立つ写真技術と知識を身につける。

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針 1.2.3 に該当する。

科目の概要

雑誌・広告・WEB・TVなど様々なメディアで活動するプロフェッショナルによる講義

ワークショップとディスカッションを通じ、「よい写真」とは何かを考え、実践する授業

一眼レフカメラ・ミラーレスカメラほか、スマートフォンやSNS (Instagram) を活用。技術、感性、メディアリテラシーを身につける。

学修目標 (= 到達目標)

- 1) カメラ操作・ライティング・画像処理技術の習得
- 2) テーマ立案、取材・撮影、プレゼンテーション、一定の質を持つ作品制作を行う能力を身につける
- 3) 写真表現を通じて「感性」「洞察力」「美意識」「行動力」を育む
- 4) 社会における写真の役割を理解する

* 受講者数・習熟度により、講義内容や進め方を若干変更することがある

内容

パワーポイント資料や解説を確認しながら知識を深め、実習と課題制作で技術と感性を養う。グループワーク、ディスカッション、プレゼン、リアクションペーパーを積極的に取り入れ、指定期日までに課題を仕上げることで、学習効果を確認してゆく。

1	オリエンテーション：講師紹介、授業の進め方
2	カメラの仕組み、写真の歴史と役割
3	一眼レフカメラの基本操作
4	露出と構図
5	考察とディスカッション：メディアリテラシー・写真と言葉
6	実習：「ポートレート」ロケーション撮影
7	実習：「ポートレート」屋内・スタジオ撮影
8	実習：写真のセレクト、リタッチ、データ管理
9	考察とディスカッション：ひとつのテーマをどのように表現するか
10	実習：「静物」形と質感の表現
11	実習：「風景・空間」ヒューマンアイとカメラアイ
12	考察とディスカッション：課題のプレゼンテーションと講評
13	実習：インタビュー・取材撮影
14	実習：ファッション、ビューティー撮影

評価

授業への取り組み姿勢（30%）、毎回のリアクションペーパー等（30%）課題作品（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。全15回の講義のうち、公欠届の無い6回以上の欠席は不合格となる。

【フィードバック】毎授業の最初と最後に質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。提出課題については各自へのコメント、授業での講評を通じてフィードバックする。

授業外学習

【事前準備】雑誌や広告、インターネットなど、日常で目にするあらゆる写真に、意識的に関心をよせること（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだことを実践し、撮影した写真（スマートフォン含め、カメラ機種は問いません）を次回の授業までに用意すること（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】都度、プリント等を配布【推薦書】授業内で紹介します【参考図書】授業内で紹介します

科目名	雑誌・書籍論		
担当教員名	飯田 日出男		
ナンバリング	KJe241		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ディプロマポリシー 2。

出版活動の中核をなす書籍出版、雑誌出版の現状と未来を、制作現場の具体的な仕事や実例を通して学ぶことで、より具体的に把握し、理解する。

科目の概要

出版界の現状を大づかみすると同時に、とりわけ編集者の仕事について理解を深める。その一助として書籍や雑誌の模擬企画を立案、講評。ゲスト講師 (現役編集者・現役営業職各 1 名) を招聘してその体験談を聞く機会を提供する。

学修目標 (= 到達目標)

- 1、雑誌制作の基本を理解する。
- 2、書籍出版の仕事の基本を理解する。
- 3、出版業界の現状を理解する。

内容

授業形式は、OHP、板書を中心とした講義形式とする。

全 2 回の課題の評価については、講師が通常講義のなかで行う。

第 1 1 回に DVD を補助教材とした講義を行う。

1	ガイダンス (出版界の現状)
2	出版社の仕組み
3	私の書籍論
4	書籍はこうしてつくられる (課題「書籍の企画を立ててみよう！」)
5	書籍編集の現場から (ゲスト講師の体験談)
6	課題「書籍企画」の講評
7	私の雑誌論
8	雑誌はこうしてつくられる (課題「雑誌の企画を立ててみよう！」)
9	雑誌編集の現場から (ゲスト講師の体験談)
10	課題「雑誌企画」の講評
11	編集者とはなにか (一部 DVD 観賞)
12	出版に携わる様々な仕事 (ゲスト講師の体験談)

13	電子書籍の課題と問題点（著作権と著作隣接権）
14	出版界はこれからどうなる
15	まとめ

評価

授業への参加度30%、リアクションペーパー（講師への質問、感想など）提出30%、課題および期末レポート提出40%点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に回答し、学習理解が深められるようにする。

授業外学習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず。推奨図書は授業時に紹介する。

科目名	Webデザイン基礎		
担当教員名	池本 哲也		
ナンバリング	KJe242		
学 科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状（情報）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1.2に該当する

科目の性格

専門選択科目メディアデザインの科目群のひとつである。情報発信の手段としてWebページによる表現力を身に着ける。

科目の概要

Webページを自分でデザインし、それを実現する能力を養う。

学修目標（=到達目標）

1. ホームページの仕組みを理解する。
2. ドローイングソフト（Adobe Photoshop、ExperienceDesign）を使ってデザインができる
3. JIS規格を考慮した、人にやさしく、多くの人にとって使いやすいWebページができる。

内容

この授業はワークショップを中心にディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく

1	オリエンテーション Web概論 制作ツールの紹介
2	情報設計（Adobe Experience Design）
3	Photoshopの使い方 UIのトレース（Adobe Photoshop）
4	Photoshopの使い方 UIのトレース（Adobe Photoshop）
5	Photoshopの使い方 UIのトレース（Adobe Photoshop）
6	デザイン制作（Adobe Photoshop）
7	デザイン制作（Adobe Photoshop）
8	デザイン制作（Adobe Photoshop）
9	デザイン制作（Adobe Photoshop）
10	デザイン制作（Adobe Photoshop）
11	自由課題作成
12	自由課題作成
13	自由課題作成
14	自由課題作成
15	自由課題の相互評価, 課題に関する振り返りとまとめ

評価

授業への参加度20%、毎回の授業時の提出課題60%、および最終課題への取り組み20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする

授業外学習

【事前予習】次の授業の内容について各自で調べておく（集中講座1日に対して60分）

【事後学修】提出課題と学習内容を再度見直し、疑問点を解消し、解消できなかった部分に関しては次の授業で質問できるようまとめておく。（集中講座1日に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しない

【推薦書】特に無し

【参考図書】教室で紹介する

科目名	サウンドデザイン応用		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング	KJe239		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「サウンドデザイン基礎」では主にDAWアプリの基礎的な操作法について学びました。この「サウンドデザイン応用」ではCD、映画、ゲームなどコンテンツにおけるサウンドデザイン研究を経て、一旦パソコンから離れ、ときには教室を飛び出します。そしてさまざまな環境の音を体験し、考えてみることを通じて「音による空間デザイン」を試みます。当科目は学科ディプロマポリシーの -3.4および -2.3に該当します。

科目の概要

- 1 コンテンツにおけるサウンドデザイン
2. 音を感じよう、音で連想しよう
3. 音を描こう、音の好みを比べよう
4. 私空間の音デザイン (学内のインテリアサウンドのコーディネート・制作)
- 5 公空間の音デザイン (地域をテーマにしたパブリックサウンドのコーディネート・制作)

学修目標 (= 到達目標)

コンテンツにおける音楽・音響、また日常空間の「音」に対して分析的な態度を身につけ、体系化する。インテリアや公共的な空間において好ましいサウンドデザインのあり方を模索し、作品として表現する。

内容

授業は講義を経てグループワークとディスカッション、最終的に演習形式で進めていきます。

なお、進度については受講生の理解度や進捗状況に応じて柔軟に対応することがあります。

1	ガイダンス、スタートアップ
2	録音芸術におけるサウンドデザイン
3	映画におけるサウンドデザイン(1)
4	映画におけるサウンドデザイン(2)
5	ゲームにおけるサウンドデザイン (ゲスト講師予定)
6	音に気付こう
7	音で連想しよう(1)
8	音で連想しよう(2)
9	音を描こう(1)
10	音を描こう(2)
11	音の好みを比べよう(1)
12	音の好みを比べよう(2)
13	公空間の音デザイン(1)
14	公空間の音デザイン(2)
15	まとめ

評価

授業への参加度、リアクションペーパー等50%、提出物50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各回の冒頭に前回の質疑応答を行う。

授業外学習

【事前準備】日常生活において「音」を分析し、体系化するようつとめる（日常的に。1日15分程度を目安とする）。

【事後学修】課題制作など、授業外の時間を活用して仕上げる（各回に対し60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しない。随時レジュメを配布。

【推薦書】「みんなのできる音のデザイン」 小松正史 著 ナカニシヤ出版

【参考図書】見えないデザイン ~サウンド・スペース・コンポーザーの仕事~ 井出祐昭 著 ヤマハミュージックメディア

科目名	サウンドデザイン応用		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング	KJe239		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「サウンドデザイン基礎」では主にDAWアプリの基礎的な操作法について学びました。この「サウンドデザイン応用」ではCD、映画、ゲームなどコンテンツにおけるサウンドデザイン研究を経て、一旦パソコンから離れ、ときには教室を飛び出します。そしてさまざまな環境の音を体験し、考えてみることを通じて「音による空間デザイン」を試みます。当科目は学科ディプロマポリシーの -3.4および -2.3に該当します。

科目の概要

1コンテンツにおけるサウンドデザイン

2.音を感じよう、音で連想しよう

3.音を描こう、音の好みを比べよう

4.私空間の音デザイン (学内のインテリアサウンドのコーディネート・制作)

5公空間の音デザイン (地域をテーマにしたパブリックサウンドのコーディネート・制作)

学修目標 (= 到達目標)

コンテンツにおける音楽・音響、また日常空間の「音」に対して分析的な態度を身につけ、体系化する。インテリアや公共的な空間において好ましいサウンドデザインのあり方を模索し、作品として表現する。

内容

授業は講義を経てグループワークとディスカッション、最終的に演習形式で進めていきます。

なお、進度については受講生の理解度や進捗状況に応じて柔軟に対応することがあります。

1	ガイダンス、スタートアップ
2	録音芸術におけるサウンドデザイン
3	映画におけるサウンドデザイン(1)
4	映画におけるサウンドデザイン(2)
5	ゲームにおけるサウンドデザイン (ゲスト講師予定)
6	音に気付こう
7	音で連想しよう(1)
8	音で連想しよう(2)
9	音を描こう(1)
10	音を描こう(2)
11	音の好みを比べよう(1)
12	音の好みを比べよう(2)
13	公空間の音デザイン(1)
14	公空間の音デザイン(2)
15	まとめ

評価

授業への参加度、リアクションペーパー等50%、提出物50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】各回の冒頭に前回の質疑応答を行う。

授業外学習

【事前準備】日常生活において「音」を分析し、体系化するようつとめる(日常的に。1日15分程度を目安とする)。

【事後学修】課題制作など、授業外の時間を活用して仕上げる(各回に対し60分程度)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教科書は使用しない。随時レジュメを配布。

【推薦書】「みんなのできる音のデザイン」 小松正史 著 ナカニシヤ出版

【参考図書】見えないデザイン ~サウンド・スペース・コンポーザーの仕事~ 井出祐昭 著 ヤマハミュージックメディア

科目名	メディアデザイン		
担当教員名	木継 則幸		
ナンバリング	KJe237		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

InDesignを使った実習を通じ、DTP及びエディトリアルデザインの基礎を学ぶ。グラフィックデザイン、エディトリアルデザイン、編集志望者を対象とする。

科目の概要

エディトリアルデザインとは、文字と画像を用いて、世界観、時間軸、メッセージ性、ユーザビリティ等の多様な観点から情報伝達を図る、総合的な視覚表現である。

本科目では、観察、発想、設計、評価のプロセスを通じ、アプリケーションの基本操作法と、デザインの基礎となる考え方を身につける。

学修目標 (= 到達目標)

エディトリアルデザインの基礎的な理解とスキルを習得。雑誌制作、新聞制作など実践的なエディトリアルデザインの実習過程に進むためのベースとなる。

内容

1週

オリエンテーション

授業の説明、エディトリアルデザインの概要、インデザインの概要、事例紹介

2-6週

基礎演習1 (パターン制作)

制作のワークフロー、インデザインの基本操作、ドキュメント作成、レイアウトの基本、カラー設定、テキストの基本設定、画像配置、プレゼンテーション

7-10週

基礎演習2 (フライヤー)

タイポグラフィ、情報設計、ユーザビリティ、レイアウトバランス、プレゼンテーション

11-14週

基礎演習3 (書籍、雑誌)

ページの基本操作、各種応用操作、ビジュアル表現、プレゼンテーション・講評

15週

まとめ

評価

提出作品・課題（50点）、準備作業の内容・プレゼンテーション（20点）、授業中の姿勢（30点）などを総合的に判断 総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】良質なアウトプットのためには、日常における観察と発想が必要。

授業ではアウトプットとディスカッションに専念するため、実習のためのリサーチ、ラフ制作、レポート等の準備作業とそのプレゼンテーションを課す。

【事後学修】実習内容を身につけるための課題を課す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示

科目名	企画・インタビュー手法		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング	KJe343		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

「インタビュー」は、コミュニケーションの手段としてメディアなど様々な場面で使われる。インタビューを行う側に立ち、事前準備、質問の仕方、終了後の対応など具体的な場面を想定しながら「実りあるインタビュー」を実現するための手法を学び、コミュニケーション能力を養う。同時に、インタビューの成否を決定づける事前準備を考えながら企画力も培う。

科目の概要

インタビュー相手の情報を収集し、発信するまでの過程を事例を使いながら学ぶ。インタビュー対象の選択、事前準備 (企画立案) に十分時間を費やす。インタビュー内容を発信する方法として、新聞・雑誌などの紙媒体、web、映像を念頭においた作業を進める。媒体の特性を踏まえた文章表現も学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 . 人を分かりやすく紹介するためには何が必要かを考えることで企画力を養う。
- 2 . インタビュー過程を学び、初対面の人と的確なコミュニケーションを取れる能力を養う。
- 3 . インタビュー相手の話を理解し、最終的にはインタビュー内容を紙媒体、web、映像で表現することで伝える力を養う。

なお、実践の1つとしてインタビュー記事を新座市の広報誌に掲載することを想定している。

内容

この授業はグループワーク、実際の取材体験と原稿作成が中心であり、必要に応じて講義も行う。

1	授業ガイダンス、インタビュー概論
2	インタビューを学ぶ 事例検討
3	インタビューを学ぶ 企画・事前準備
4	企画の立て方、インタビュー手法、インタビュー内容の伝え方
5	インタビューの実践 1
6	インタビューの実践 2
7	インタビューまとめ 原稿制作とプレゼンテーション
8	新座市との連携 1 (男女共同参画についての事前学習)
9	新座市との連携 2 (インタビュー対象の選定、事前準備)
10	インタビュー実践 1
11	インタビュー実践 2
12	インタビューまとめ 1
13	インタビューまとめ 2
14	成果物の発表
15	成果物の発表、課題提示によるレポート作成

評価

授業への参加度50%、実践における役割30%、成果物の評価20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】新聞、雑誌、インターネットなどからインタビュー記事を読み込んでおく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で取り上げたテーマを再確認し、実際のインタビューにどう役立てるかを考え、まとめる。（各授業の対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定はしない。講義ではレジュメおよび資料を配布する。

【推薦図書】「インタビューの教科書」（原正紀、同友館）「インタビュー術」（永江朗、講談社）

【参考図書】記者ハンドブック（共同通信社刊）

科目名	メディアデザイン論		
担当教員名	川瀬 基寛		
ナンバリング	KJe344		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1、2に該当する。

本科目はメディアコミュニケーション学科の専門科目であり、主にデザイン分野における歴史からメディアとデザインを読み解くことで思考力を養い、見る力を養う。

科目の概要

デザインの歴史や作品を鑑賞することで、デザイン分野 (グラフィック、デジタル、プロダクト、映像、空間) やデザイナー (人物) や製品との関係性を学習する。また、デザイン理論の基礎、アイデア発想法、メディアとの関係性、生活のためのデザイン等について学習する。

アクティブラーニングとしてデザインリサーチによるフィールドワークを実践し、デザインがコミュニケーションツールであることを理解する。

学修目標 (= 到達目標)

- ・デザイン分野や歴史 (デザイン史) についての理解
- ・デザイン理論、アイデア発想法などの思考力の習得
- ・メディアとの関係性、デザインがコミュニケーションツールであることの理解

内容

進行具合により内容を変更する場合があります。

場合により教室外で授業を実施します。

歴史資料として多くの作品画像・現物・書籍を鑑賞する機会があります。

1	イントロダクション
2	デザイン史－1800年代以前
3	デザイン史－1800～1950年代
4	デザイン史－1800～1950年代
5	デザイン史－1800～1950年代
6	デザイン史－1950～2000年代
7	デザイン史－1950～2000年代
8	デザイン史－1950～2000年代
9	デザイン史－2000年代以降
10	デザイン史－2000年代以降
11	ネットワーク時代の建築・デザイン・メディア
12	デザインリサーチ
13	デザインリサーチ

14	デザインリサーチ
15	まとめ、リサーチ発表

評価

毎回のリアクションペーパー（15%）、課題レポート（40%）、GW（30%）、授業参加度（15%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーの意見や質疑応答などを授業の最初に実施し、より理解を深めた学習ができるようにする。

授業外学習

【事前準備】事前調査が必要な場合は準備すること。（各30分）

【事後学修】課題があれば期限内に作業して提出すること。（各60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じてプリントを配布

【推薦書】授業内で提示

【参考図書】授業内で提示

科目名	コンピュータグラフィックス論		
担当教員名	北原 俊一		
ナンバリング	KJe245		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針 1 , 2 に該当する。

メディアコミュニケーション学科専門科目のメディアデザインの科目群の科目である。コンピュータによる作品制作をすることはせず、テキストに沿ってグラフィックスの知識を学び、社会での利用方法について学修する。

科目の概要

・座学である。制作はせず、コンピュータグラフィックスに関する基礎的な事項を学習する。検定のテキストおよび問題を利用し、問題演習をこなしながら、知識の定着を図る。

・必ず、学外の検定試験を受験する。知識の定着を確認するためである。詳細は授業中に説明する。

学修目標 (= 到達目標)

デジタル画像のしくみと特性がわかる

3次元グラフィックスの考え方が理解できる

3次元での質感の表現, 構図の取り方, ライトの設定について理解できる

デジタルデータの特徴や情報モラルがわかる

内容

1	コンピュータグラフィックス(CG)の歴史と利用のされかた
2	遠近法/動きの表現
3	2次元CGの基礎: デジタル画像のしくみ
4	写真撮影
5	写真のレタッチ
6	3次元CGの制作: モデリング
7	マテリアル
8	アニメーション
9	カメラワーク
10	ライティング
11	レンダリング手法
12	合成
13	知的財産権
14	画像, 文書, 音楽などのファイル形式
15	まとめ

評価

筆記試験70%、授業の参加度を30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出物に対してのフィードバックとして、様々な意見を紹介して考え方・見方の違いを共有する。またそれに対するコメントを行い、学修を深める。

授業外学習

【事前学修】事前にテキストに出てくるキーワードについて調べ、A5用紙1枚にまとめておく。(各授業で60分)

【事後学修】授業で取り扱った事柄を効率よく復習できるよう、とりわけ自分が知らなかったキーワードを厳選し、その意味をA5用紙1枚にまとめておく。(各授業で60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】入門CGデザイン,CG-ARTS協会

【推薦書】CGクリエイター検定公式問題集,CG-ARTS協会

科目名	Webデザイン応用		
担当教員名	池本 哲也		
ナンバリング	KJe342		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1.2に該当する

科目の性格

本科目は、メディアコミュニケーション学科専門選択科目である。コンピュータソフトを使用した、創作活動に関心がある学生向けである。

科目の概要

「Webデザイン基礎」を踏まえ、より実践的なWebデザインを学習する。

Webデザインの最適なプロセスを検討していく。また、ソースコード領域に加え、UI、UX等のインフォメーションアーキテクト領域、また、Web構築・運用にまつわる、ディレクション、マネージメント領域にも触れる。アプリケーションソフトは主に、Adobe「Photoshop」「Dreamweaver」「Experience Design」を利用する。

学修目標

- ・webサイトの基本構造が理解できる。
- ・自分のサイトを公開できるようになる。

内容

この授業はワークショップを中心にディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく

HTMLの基本を理解していること。また、Photoshopの基本操作が行えることを前提とする。

1	オリエンテーション
2	Web概論 (フロントエンド・バックエンド)
3	Web構築手順 (「Photoshop」「Dreamweaver」「Experience Design」) の基本について
4	HTMLとCSS基礎
5	HTMLとCSS基礎
6	HTMLとCSS基礎
7	HTMLとCSS基礎
8	HTMLとCSS基礎
9	HTMLとCSS応用
10	HTMLとCSS応用
11	--課題制作・サイトデザイン制作--
12	--最終課題制作・サイトデザイン制作--
13	--最終課題制作・サイトデザイン制作--
14	--最終課題制作・サイトデザイン制作--
15	まとめ

評価

授業への参画、課題の取り組み状況などの平常点30%、課題の評価点70%で評価をおこなう。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回の授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする

授業外学習

【事前予習】次の授業の内容について各自で調べておく（集中講座1日に対して60分）

【事後学修】提出課題と学習内容を再度見直し、疑問点を解消し、解消できなかった部分に関しては次の授業で質問できるようまとめておく。（集中講座1日に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示する。

科目名	色彩論		
担当教員名	川瀬 基寛		
ナンバリング	KJe446		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1、2に該当する。

本科目はメディアコミュニケーション学科の専門科目であり、色彩の基礎からデジタル色彩の基礎、デジタル画像の基礎知識を学習し、配色トレーニングを実践する。

科目の概要

コンピュータを使用したデザインやCG、Web制作が増える中、一般的な色彩理論に加えデジタル上での色彩の違いを認識して表現する事が必要である。そのためコンピュータで扱うデジタル画像やデジタル色彩も踏まえて、色彩に関する様々な事柄を学習する。配色に関しても基礎知識を学習して、実践的なトレーニングとして配色演習を行う。

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 色彩の基礎の理解
- ・ デジタル色彩の基礎の理解
- ・ 配色手法の理解

内容

12色以上の色鉛筆、のり、はさみ等が必要になります (カラーチャートはこちらで準備します) 。

15回目に試験 (確認テスト) を実施します。

上記が必要な場合、授業内でアナウンスします。

進行具合により内容を変更する場合があります。

1	ガイダンス、色彩とその役割
2	色の基礎特性
3	デジタル画像の基礎
4	色のデジタル表現と役割
5	色彩の法的規制、流行色
6	カラーリサーチの理論と手法、配色演習基礎 1
7	色彩生理学と色の意味、トーンの意味、配色演習基礎 2
8	カラーイメージチャートの仕組み、色のイメージ、配色演習基礎 3
9	様々な配色の技法、配色演習基礎 4
10	配色トレーニング 1
11	配色トレーニング 2、3
12	SD法による色彩計画、配色トレーニング 4
13	環境と建築の色彩、環境色彩学、配色トレーニング 5
14	色彩とアナロジー、配色トレーニング 6

評価

演習課題(30%)、リアクションペーパー(15%)、試験(40%)、授業参加度(15%)とし、総合評価60点以上を合格とする。 指定(色鉛筆やカラーチャート等)以外での演習課題は評価しません。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業のリアクションペーパーの意見の紹介・演習課題の提示をすることで、様々な視点から色彩の理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】次回の関連事項を確認し、学習すべき内容を確認しておくこと。(各15~30分)

【事後学修】配布資料を良く読み復習し、時間内に完了しなかった演習課題を終わらせ提出することで、学習した内容をしっかり身につける。(各30~60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要に応じてプリントを配布

【推薦書】授業内で提示

【参考図書】授業内で提示

色鉛筆やカラーチャートに関しては、第1回目の授業で指示する。

科目名	メディアプロデュース論		
担当教員名	加藤 亮介		
ナンバリング	KJf147		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1.2.3に該当する。
メディア・コンテンツの提供側としての視点を習得する科目であり、
コンテンツマーケティング論とも関連性がある。

科目の概要

下記の論点を消化しつつ、「メディアとプロデュース」の関係について検討していく。

1.メディア環境と自分 2.メディアによる情報と意思決定 3.メディアにおける発信者の意図

学修目標 (= 到達目標)

- ・マスメディアからネットメディアまで、現代の多様なメディア環境の中で「正しい意思決定」が行える能力を養う。
 - ・自分なりの「メディア活用」や「メディア発信」を考え、プロデュース視点を養う。
- 履修者数等の都合により一部内容を変更する場合がある。

内容	
1	ガイダンス
2	現代メディア雑感
3	メディア環境と自分1
4	メディア環境と自分2
5	演習回(番組鑑賞・ディスカッション等)
6	メディアによる情報と意思決定1
7	メディアによる情報と意思決定2
8	メディアによる情報と意思決定3
9	演習回(番組鑑賞・ディスカッション等)
10	メディアの意図：マスメディア考察 1
11	メディアの意図：マスメディア考察 2
12	メディアの意図：ネットメディア考察 1
13	メディアの意図：ネットメディア考察 2
14	演習回(番組鑑賞・ディスカッション等)
15	総括

評価

参加態度(50%)・提出物・発表等のアウトプット(50%)で総合的に評価
総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

事前 前回授業で指定したコンテンツ(記事、映像、その他)についての読み解きを行ってこよう。

事後 返却されたコメントペーパーと共に授業内容について復習を行うこと。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

科目名	映像制作基礎		
担当教員名	加藤 亮介		
ナンバリング	KJf148		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士 / 高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

映像制作のセオリーや手法を学習して作品制作を行う。

「放送番組制作(ドキュメンタリー)」「放送番組制作(スタジオ)」と関連性をもつ。

科目の概要

映像制作のワークフローを体験しながら、

シナリオ構成・撮影・編集における基本技術を習得する。

学修目標 (= 到達目標)

- ・シナリオ構成の理解
- ・ビデオカメラ・レンズ特性の理解と操作方法の習得
- ・編集技法及び編集ソフトの基本操作の理解

本講義は、チームを構築し凝縮した制作演習を行う都合上、人数制限を行う可能性がある。

内容

1	イントロダクション
2	映像制作のワークフロー
3	ビデオカメラ基礎
4	ビデオカメラ基礎
5	映像編集 (基本操作・素材取り込み)
6	映像編集 (カット編集・トランジション)
7	映像編集 (タイトル・BGM)
8	映像編集 (ポストプロ・書き出し)
9	作品制作 (企画決定)
10	作品制作 (撮影)
11	作品制作 (撮影)
12	作品制作 (撮影・編集)
13	作品制作 (編集)
14	作品制作 (編集)
15	まとめ、合評会

評価

授業内課題（60点）、授業参加度（40点）の合計100点満点で採点し、60点以上を合格とします。
作品が未提出の場合は評価しません。

授業外学習

【事前準備】授業前に、チームごとに企画立案・課題制作を積極的に進めておくこと。

【事後学修】授業内容をもとに、チームごとに企画立案・課題制作を深めておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて資料を配布します。

科目名	コンテンツマーケティング論		
担当教員名	加藤 亮介		
ナンバリング	KJf249		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1.2.3に該当する。
メディア・コンテンツの提供側としての視点を習得する科目であり、
メディアプロデュース論を踏まえて本科目を理解する必要がある。

科目の概要

下記の論点を消化しつつ、「メディアとマーケティング」の関係について検討していく。

学修目標 (=到達目標)

- ・多様化するメディア環境の中で「正しい意思決定」が行える能力を養う。
- ・自分なりの「コンテンツ制作」や「コンテンツマーケティング」が思考できるようになる。

授業の連環上、前期「メディアプロデュース」を履修済みが好ましい。

履修者数等の都合により一部内容を変更する場合がある。

内容	
1	ガイダンス
2	マーケティング概論1
3	マーケティング概論1
4	マスメディアとマーケティング 1
5	マスメディアとマーケティング 2
6	マスメディアとマーケティング 3
7	演習回(番組鑑賞・ディスカッション等)
8	インターネットとマーケティング 1
9	インターネットとマーケティング 2
10	インターネットとマーケティング 3
11	演習回(ディスカッション・グループ制作等)
12	演習回(ディスカッション・グループ制作等)
13	演習回(ディスカッション・グループ制作等)
14	演習回(ディスカッション・グループ制作等)
15	総括

評価

参加態度(50%)・提出物・発表等のアウトプット(50%)で総合的に評価

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

事前 前回授業で指定したコンテンツ(記事、映像、その他)についての読み解きを行ってこること。

事後 返却されたコメントペーパーと共に授業内容について復習を行うこと。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

科目名	広告制作		
担当教員名	谷口 京		
ナンバリング	KJf250		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

広告表現とその手法からコミュニケーション・デザインを学ぶ。その習得により、人や社会に対して自身がどのような価値観を提供し、影響を与えることができるのかを考えてゆく。

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針 1.2.3 に該当する。

科目の概要

広告の役割、メディアの種類、コミュニケーションの基本戦略を理解し、広告表現とデザインの具体的な手法を視覚的に体験する。

学修目標 (= 到達目標)

画像・映像資料や解説を確認しながら講義を進行し、リテラシーを深める。出題された課題を指定期日までに仕上げ、学習効果を確認してゆく。

1. 広告の基礎と役割を理解する。
2. 表現手法としてのコミュニケーションデザインを理解する。
3. 広告制作のワークフローを理解し、実践的なコミュニケーション能力を身につける。

* 受講者数や習熟度により、講義内容や進め方を若干変更することがある

* 同年度または過年度に「写真技術」を履修していることが望ましい

内容

画像・映像資料や解説を確認しながら講義を進行し、リテラシーを深める。グループワーク、ディスカッション、プレゼン、リアクションペーパーを積極的に取り入れ、出題された課題を指定期日までに仕上げることで、学習効果を確認してゆく。

1	イントロダクション
2	街を広告から見てみよう～私の好きな広告・嫌いな広告
3	広告ってどんな人が作ってるんだろう～広告ビジネスの概要と広告戦略
4	CMのやりかたをのぞいてみよう～日本の広告・海外の広告
5	広告アイデアってどうやって思いつくんだろう～発想は知識から生まれる
6	コピーを書いてみよう：言葉のチカラを掴む
7	写真を撮ってみよう：写真のチカラを掴む
8	デザインしてみよう：デザインのチカラを掴む
9	大学を広告してみよう～大学を一行のコピーで書いてみる
10	大学を広告してみよう～大学を一枚の写真に撮ってみる
11	課題プレゼンテーションと講評
12	私を広告してみよう～私らしいコピーを書いてみよう
13	私を広告してみよう～私の未来をデザインしよう

14	課題プレゼンテーションと講評
15	まとめ

評価

授業への取り組み姿勢（30%）、毎回のリアクションペーパー等（30%）課題提出と質（40%）を評価し、総合評価60点以上を合格とする。全15回の講義のうち、公欠届の提出が無い6回以上の欠席は不合格となる。【フィードバック】毎授業の最初と最後に質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。課題に対しては各自へコメント、プレゼン実習と講評を通じてフィードバックする。

授業外学習

【事前予習】WEB・TV・雑誌・交通広告など、身の回りの広告表現に注意を払い、その広告の意図・目的や制作背景を考察すること。出題された課題の調査・資料収集を行うこと（各授業に対して60分）

【事後学修】授業内容や授業で紹介された広告表現について考察し、理解を深める。復習ノートを作成し、知識とアイデアを蓄積すること（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、その都度プリントを配布する。推薦図書や参考ホームページ等は授業内で紹介する。

科目名	広報制作		
担当教員名			
ナンバリング	KJf351		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

企業や各種団体が持続的活動を可能にする条件の1つとして広報活動は不可欠な要素である。将来、職に就いた際も広報に関わる機会は必ず訪れる。実際に広報紙誌を作成する過程を体験しながら企業団体における広報の役割について理解を深める。さらに文章に見出しを付け、写真や図表を組み合わせ、分かりやすく読みやすい紙面を作るには、文章力と編集力は欠かせない。授業は本学広報誌「Jumonji Press」の制作にかかわりながら2つの力量を養い、取材力さらには社会人になった際に役立つコミュニケーション能力を向上させる。

内容

広報紙誌の役割を再学習した上で、大学広報誌の編集の一端を担う。大学広報課と連携し、掲載テーマ、特集テーマを検討。さらに取材対象者の選定、取材内容の詰めなどの事前準備、実際の取材、執筆、紙面レイアウト、校正作業を通して広報紙誌作成の課程を学ぶ。グループワークを中心に進める。大学広報誌は後期終了後の3月発行を予定。保護者、卒業生、関係団体など幅広く配布され、本学を内外にPRするツールである。

評価

授業参加度50%、共同作業への貢献度20%、担当したテーマの完成度30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前準備】指示された事前課題に取り組む
- 【事後学修】締め切りまでの課題に取り組む

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

- 【参考図書】授業内で指示する。

科目名	新聞・雑誌制作基礎		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング	KJf352		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1、2に該当する。

実際の新聞紙面を企画・執筆・レイアウトする制作プロセスを学び、活字メディアを知る機会とする。学内・学外の取材を積極的に行い、社会性を身に着け、メディアリテラシーの理解を深め、「文章力・編集力」を伸ばす。

科目の概要

統一したテーマの下、取材チーム編成し、協働作業を中心に置いて授業を進める。記事執筆、文章校正、見出しや写真を組み合わせ読みやすく見やすい紙面を作り上げる。全体の作業の流れを把握しつつ、ニュースの価値判断力も養う。編集ソフトを活用し、紙面制作に具体的に取り組む。

学修の目標

活字メディアに触れる機会を作り、理解を深めることが最大の目標である。自ら企画、取材、編集することを通して文章力全般の能力を伸ばす。プレゼン能力・筆力を含めたコミュニケーション能力、洞察力を養う。受講学生のメディア業界をはじめとした就職力・就業力アップにも繋げる。編集ソフトを用い、1人でも紙面を作れる能力を培う。

内容

この授業は、企画・取材・執筆・校正・レイアウトなど一連の編集作業に実践的に取り組む。必要に応じて講義も実施する。

1. データ (記事、写真) を基に、編集ソフトを活用して紙面づくりに取り組む。編集ソフトのマスターと習熟を図る。
2. 学内行事や学外イベント、人物の取材に取り組む。紙面の狙い (企画)、取材対象の選定、取材準備、アポイントの取り方など事前準備を踏まえ、インタビュー・写真撮影を含めた実際の取材を行い、取材後の記事制作、紙面編集・校正など一連の編集作業を体験する。
3. 取材・編集行程でグループを作り、協働作業を基本とし、互いに補完しあうことを基本に置く。
4. 一連の取り組みを通じて、「社会で通用する文章力」と「コミュニケーション力」を磨き、就職就業に大い役立つ「取材・執筆 (写真撮影も)」の醍醐味と、多くの人に読んでもらえる完成物を作り上げた達成感を目指す。
5. 通常授業の座学にとどまらず、キャンパスの内外での取材は急な対応も求められるため、スケジュールを守って成果物を出す実践的な授業であることを認識した上で受講してほしい。

評価

授業への参加度50%、課題制作の参加度20%、制作物の評価30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業で取り組んだ課題を提出してもらい、必要な助言を添えて返却する。

授業外学習

【事前予習】次回授業で取り上げる編集に関する作業テーマについて理解を深めてくる。また編集ソフトの習熟を図る。(各授業に対して60分)

【事後学修】編集に関する作業をまとめる。返却された課題の再確認に取り組む。また編集ソフトの習熟を図る。(各授業

に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

市販の編集ソフトを使用する。

【推薦図書】『新聞用字用語集(記者ハンドブック)』(共同通信社刊)

科目名	アニメーション制作基礎		
担当教員名	仁藤 潤		
ナンバリング	KJf353		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、学科ディプロマポリシー 1、2、3 に該当する。短編アニメーション制作に関心のある学生向けの内容である。

科目の概要

アニメーション制作の基礎から応用までを体験します。

学修目標 (= 到達目標)

- ・短編アニメーション制作を 1 人で行えるようになる。
- ・動画編集ソフトが使うことができる。
- ・自分の作品を企画することができる

内容

1	ガイダンス 授業の説明 短編アニメーションの世界人について
2	スマホを使ったストップモーション体験
3	ピクシレーション 人を使ったアニメーション
4	ピクシレーション アニメーション制作
5	ピクシレーション 発表会
6	ドット絵アニメーション ドット絵の作成
7	ドット絵アニメーション Photoshopを使ったアニメーションの作り方
8	ドット絵アニメーション 課題制作
9	ドット絵アニメーション 課題制作
10	ドット絵アニメーション 作品発表会
11	最終課題 企画発表会
12	最終課題 アニメーション制作
13	最終課題 アニメーション制作
14	最終課題 作品の仕上げ
15	最終課題 作品発表会

評価

平常点(最大30点) : 授業マナーを守り、授業に積極的に取り組む態度を評価する。

最終課題(最大50点) : 理解度・完成度を評価する。

コメントシート(最大20点) : 課題の意図をしっかりと理解しているかを評価する。

フィードバック・課題に対して、全体にコメントします・最終課題に対して、個別にコメントします。

授業外学習

「事前学修」授業のテーマに対して、リサーチを行い予習を行う。90分

「事後学修」授業の内容に対して、リサーチを行い自分の言葉でまとめる。90分

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない

【推薦書】授業時に指示する。

【参考図書】アニメーションの本 動く絵を描く基礎知識と作画の実際 アニメ6人の会 著 合同出版

科目名	グラフィックデザイン		
担当教員名	川瀬 基寛		
ナンバリング	KJf354		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	上級情報処理士 / ウェブデザイン実務士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1、2に該当する。

本科目はメディアコミュニケーション学科の専門科目であり、主にグラフィックデザインにおける実践力を養う。

科目の概要

レイアウト、造形、色、タイポグラフィなどの基本から紙媒体 (名刺、ポストカード、ポスター、パンフレット等) を中心に作品制作によるトレーニングを行い、デザイン力とデザインによるコミュニケーション力を養う。

メディアデザイン を履修済み (Adobe IllustratorおよびPhotoshopの基本操作が出来ることを前提) が望ましい。

学修目標 (= 到達目標)

- ・レイアウト、造形、色、タイポグラフィなどの基礎を理解
- ・紙媒体 (名刺、ポストカード、ポスター、パンフレット等) を中心とした実践力を習得
- ・デザインが持つ力とデザインによるコミュニケーションを理解

内容

USBメモリ、白無地のノートやクロッキー帳等を準備してください。

進行具合により内容を変更する場合があります。

ほぼ毎時間に課題や応用作品の提出がありますので、欠席をしないように心がけてください。

1	グラフィックデザインをはじめる前に
2	レイアウトの基礎 1
3	レイアウトの基礎 2
4	レイアウトの基礎 3
5	基本的な図形によるデザイン 1
6	基本的な図形によるデザイン 2
7	基本的な図形によるデザイン 3
8	色を使った平面構成 1
9	色を使った平面構成 2
10	色を使った平面構成 3
11	実践的なレイアウト 1
12	実践的なレイアウト 2
13	実践的なレイアウト 3
14	応用作品制作
15	まとめ (作品発表・講評)

評価

応用作品（35%）、授業内課題（50%）、授業参加度（15%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

指定課題が未提出の場合は評価しません。

【フィードバック】毎授業の最初に前回課題の提示をすることで、様々な視点やアイデアの確認となり、理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】事前資料の読み込みや素材収集がある場合は必ず行なう。（各30分）

【事後学修】期限までに課題制作を行なう。（各30～60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じてPDFファイル・データファイルを配布

【推薦書】授業内で提示予定

【参考図書】授業内で提示予定

科目名	放送番組制作（ドキュメンタリー）		
担当教員名	加藤 亮介		
ナンバリング	KJf355		
学 科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

「映像制作基礎」の理解を踏まえ、ドキュメンタリーの制作手法を学習する。

科目の概要

ドキュメンタリー映像の視聴・分析、

チームによる企画・制作を行う。

学修目標（＝到達目標）

- ・映像文脈の応用的理解
- ・ドキュメンタリー映像の制作手法の習得

本講義は、チームを構築し凝縮した制作演習を行う都合上、人数制限を行う可能性があります。

内容

毎時間、課題があり新しいことを学習していきますので、欠席しないようにしてください。

1	イントロダクション
2	ドキュメンタリー概論
3	映像分析
4	映像分析
5	撮影技術
6	撮影技術
7	編集技術
8	編集技術
9	企画・制作(グループワーク)
10	企画・制作(グループワーク)
11	企画・制作(グループワーク)
12	企画・制作(グループワーク)
13	発表会
14	発表会
15	まとめ

評価

授業内課題（60点）、授業参加度（40点）の合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業前に、チームごとに企画立案・課題制作を積極的に進めておくこと。

【事後学修】授業内容をもとに、チームごとに企画立案・課題制作を深めておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

科目名	音声制作（ラジオ）		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング	KJf356		
学 科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

音声のみによるメディアであるラジオ。テレビの全盛期には長期的な凋落傾向にあったが先の震災をきっかけに再評価され、いままた注目されている。ネットラジオの普及により、スマートフォンやPCで無数のチャンネルにアクセスできるようになったことも大きい。この授業ではワークショップ形式でラジオ番組制作を体験することによって、あらためてラジオというメディアの特性や可能性を探っていく。当科目は学科ディプロマポリシーの -1.3.4および -3、 -4に該当する。

科目の概要

- .報道番組、紹介番組、解説番組、キャンペーン番組のなかからひとつを選び、番組を制作する。
- .音楽番組を制作する。

制作した番組は試聴会を行い、相互に評価をする。

学修目標（=到達目標）

ラジオ番組の特性を理解し、目的に沿った番組作りを考えて的確にメッセージを発信できるようになる。
また、録音や編集を通じて音声制作ツールのスキルを高める。

内容

授業は主としてグループワークとディスカッションで進めていく。

- 第1回 オリエンテーション ラジオの特性と可能性
- 第2回 番組制作 番組企画書
- 第3回 取材 録音
- 第4回 企画構成カード、放送原稿の作成
- 第5回 制作実習(1) 構成 音声編集
- 第6回 制作実習(2) BGM、SE（効果音）作成
- 第7回 制作実習(3) BGM、SE（効果音）作成
- 第8回 ミックスダウン エンコード 試聴会
- 第9回 番組制作 番組企画書
- 第10回 選曲 取り込み
- 第11回 企画構成カード、放送原稿の作成
- 第12回 制作実習(1) 録音
- 第13回 制作実習(2) 構成 音声編集
- 第14回 制作実習(3) BGM、SE（効果音）作成
- 第15回 まとめ ミックスダウン エンコード 試聴会

授業の進度は作業の進捗状況などから判断して調整することがあります。

評価

平常点、授業参加態度など40%、提出物の評価60%..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

なお、規定の提出物が出ていない場合は評価できません。

【フィードバック】各回の冒頭に質疑応答を行う

授業外学習

【事前予習】日常的にラジオ番組をよく聴きこんでおくこと。もしラジオを持っていなくても手持ちのスマートフォンアプリやパソコンなどで簡単に聴取できます（毎日15分から30分程度）。

【事後学修】取材や編集など、授業のペースに合わせて適宜行う（各回に対し60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、推薦書については随時紹介する。

科目名	インタラクティブコンテンツ制作		
担当教員名			
ナンバリング	KJf457		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科専門科目である。

映像制作のセオリーや手法を応用して、インタラクティブコンテンツとしてのモーショングラフィックス作品の制作を行う。

科目の概要

映像としてインタラクティブ性が高いモーショングラフィックスを、企画から制作までを実践する。

ソフトウェア (Adobe AfterEffects) の基本操作とモーショングラフィックスの基本を中心とした基礎作品制作を行い、表現手法の理解と能力を養い、実践的な技術も取り入れCM制作を行う。

Premiere・Illustrator・Photoshopの基礎スキルがあると良い。

学修目標 (= 到達目標)

- ・映像編集・加工ソフト (Adobe After Effects) の基本操作の理解
- ・基本的な編集・加工技法の習得
- ・モーショングラフィックスの特性とワークフローの理解

内容

毎回課題があり?新しいことを学習していきますので、欠席しないようにしてください。

基本的に資料に頼らないで授業を進めますので、欠席すると学習が進まなくなります。

必要に応じて、データを保存するUSBメモリを準備してください。

1	ガイダンス
2	モーショングラフィックスと編集・加工の基礎 (ワークフローの理解)
3	After Effectsの基本操作
4	After Effectsの基本操作
5	After Effectsの基本操作
6	After Effectsの基本操作
7	After Effectsによる基礎作品制作
8	After Effectsによる基礎作品制作
9	基礎作品 (2点) の発表・講評
10	After Effectsによる作品制作
11	After Effectsによる作品制作
12	作品制作の中間発表
13	After Effectsによる作品制作
14	After Effectsによる作品制作

評価

授業内課題(35%)、最終作品(50%)、授業参加度(15%)とし、総合評価60点以上を合格とする。
指定課題(企画、アイデア、絵コンテ、および作品)が未提出の場合は評価しません。

授業外学習

- 【事前準備】次回の関連事項を確認し、学習すべき内容を確認しておくこと。
- 【事後学修】資料を良く読み復習することで、学習した内容をしっかり身につける。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】必要に応じてPDFファイル・データファイルを配布
- 【推薦書】授業内で提示
- 【参考図書】授業内で提示

科目名	映像制作応用		
担当教員名	川瀬 基寛		
ナンバリング	KJf448		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1、2に該当する。

本科目はメディアコミュニケーション学科の専門科目であり、基礎で学習した映像制作のセオリーや手法を応用して作品制作を行う。

科目の概要

映像制作におけるモーショングラフィックスを主体にして、アイデア立案から制作までを行う。ソフトウェア (Adobe AfterEffects) の基本操作とモーショングラフィックスを中心とした基礎作品制作を行い、映像表現手法の理解と能力を養う。応用作品は、実践的な技術も取り入れ15秒CM制作を行う。

映像制作基礎を履修済みが望ましい

Illustrator・Photoshopの基礎スキルが前提

学修目標 (= 到達目標)

- ・ 映像編集・加工ソフト (Adobe After Effects) の基本操作の理解
- ・ 基礎的な編集・加工技法の習得
- ・ モーショングラフィックスの特性とワークフローの理解

内容

進行具合により内容を変更する場合があります。

毎回課題があり、新しいことを学習していきますので、欠席しないようにしてください。

基本的に資料に頼らないで授業を進めますので、欠席すると学習が進まなくなります。

データを保存するUSBメモリ等を毎時間持参してください。

1	ガイダンス
2	モーショングラフィックスと編集の基礎 (ワークフローの理解)
3	After Effectsの基本操作 1
4	After Effectsの基本操作 2
5	After Effectsの基本操作 3
6	After Effectsの基本操作 4
7	After Effectsによる基礎作品 1
8	After Effectsによる基礎作品 2
9	基礎作品の発表・講評
10	After Effectsによる応用作品 1
11	After Effectsによる応用作品 2
12	After Effectsによる応用作品 3

13	After Effectsによる応用作品 4
14	After Effectsによる応用作品 5
15	まとめ、応用作品の発表・講評

評価

授業内指定課題(45%)、応用作品(40%)、授業参加度(15%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

指定課題(企画、アイデア、絵コンテ、および作品)が未提出の場合は評価しません。

【フィードバック】毎授業の最初に前回課題の提示をすることで、様々な視点やアイデアの確認となり、理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】次回の関連事項を確認し、学習すべき内容を確認しておくこと。(各30分)

【事後学修】資料を良く読み復習することで、学習した内容をしっかり身につける。課題があれば期限内に制作して提出する。(各30~60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要に応じてPDFファイル・データファイルを配布

【推薦書】授業内で提示

【参考図書】授業内で提示

科目名	新聞・雑誌制作応用		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング	KJf452		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1、2に該当する。

新聞・雑誌制作基礎の応用編であり、学修目標を深化させる。

実際の新聞紙面を企画・執筆・レイアウトする制作プロセスを学び、活字メディアを知る機会とする。学内・学外の取材を積極的に行い、社会性を身に付け、メディアリテラシーの理解を深め、「文章力・編集力」を伸ばす。

科目の概要

統一したテーマの下、取材チーム編成し、協働作業を中心に置いて授業を進める。記事執筆、文章校正、見出しや写真を組み合わせ読みやすく見やすい紙面を作り上げる。全体の作業の流れを把握しつつ、ニュースの価値判断力も養う。編集ソフトを活用し、紙面制作に具体的に取り組む。また大学広報誌「Jumonji Press」の一部について取材・原稿を担当する。

学修の目標

活字メディアに触れる機会を作り、理解を深めることが最大の目標である。自ら企画、取材、編集することを通して文章力全般の能力を伸ばす。プレゼン能力・筆力を含めたコミュニケーション能力、洞察力を養う。受講学生のメディア業界をはじめとした就職力・就業力アップにも繋げる。編集ソフトを用い、1人でも紙面を作れる能力を培う。

内容

この授業は、基礎編を発展させ企画・取材・執筆・校正・レイアウトなど一連の編集作業の能力を向上させるために実践的な授業を展開する。必要に応じて講義も実施する。

1. データ (記事、写真) を基に、編集ソフトを活用して紙面づくりに取り組む。編集ソフトのマスターと習熟を図る。
2. 学内行事や学外イベント、人物の取材に取り組む。紙面の狙い (企画)、取材対象の選定、取材準備、アポイントの取り方など事前準備を踏まえ、インタビュー・写真撮影を含めた実際の取材を行い、取材後の記事制作、紙面編集・校正など一連の編集作業を体験する。
3. 取材・編集行程でグループを作り、協働作業を基本とし、互いに補完しあうことを基本に置く。
4. 一連の取り組みを通じて、「社会で通用する文章力」と「コミュニケーション力」を磨き、就職就業に大い役立つ「取材・執筆 (写真撮影も) 」の醍醐味と、多くの人に読んでもらえる完成物を作り上げた達成感を目指す。
5. 通常授業の座学にとどまらず、キャンパスの内外での取材は急な対応も求められるため、スケジュールを守って成果物を出す実践的な授業であることを認識した上で受講してほしい。

評価

授業への参加度50%、課題制作の参加度20%、制作物の評価30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】次回授業で取り上げる編集に関する作業テーマについて理解を深めてくる。また編集ソフトの習熟を図る。(各授業に対して60分)

【事後学修】編集に関する作業をまとめる。返却された課題の再確認に取り組む。また編集ソフトの習熟を図る。（各授業に対して60分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

市販の編集ソフトを使用する。

【参考図書】推薦書：『新聞用字用語集（記者ハンドブック）』（共同通信社刊）

科目名	電子ブック制作		
担当教員名	木継 則幸		
ナンバリング	KJf458		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディア、編集、ブックデザインに関心のある者を対象とする。

実習：8割、グループワーク：2割程度の構成比で授業を進める。

実習では電子ブック (Kindle本) を制作、

グループワークでは電子ブックをモチーフにメディア論 (時代に応じたメディアやコンテンツのあり方) を議論する。

科目の概要

Kindleダイレクト・パブリッシングの仕組みを使って実際に電子ブック (Kindle本) を制作する。

実習とグループワークを通じて、デザインのためのテクニカルな手法と同時に、

時代性を考慮したコンテンツ設計の考え方を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

電子ブック制作の基礎的な理解とスキルを習得。

実習を通じてコンテンツ表現の理解を深める。

内容

1週

オリエンテーション 授業の説明

2週

講義とグループワーク

電子書籍の基礎知識、時代に応じたメディアの変化やコンテンツのあり方などについて議論

3週

実習準備

Kindle本を作成する準備 (制作の流れ、ツールの準備と説明)

4週-7週

基礎演習1 Kindle本を作成する

8週-10週

基礎演習2 Kindle本をプレビューする

11週-14週

基礎演習3 Kindle本のクオリティを上げる

15週

振り返り 実習を通じた気づきの共有とディスカッション

評価

提出作品・課題（50点）、準備作業の内容・プレゼンテーション（20点）、授業中の姿勢（30点）などを総合的に判断とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業で良質なディスカッションを行うため、メディアに関するリサーチや論考等の準備作業を課す。

【事後学修】特になし。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリエンテーション時に指示

科目名	放送番組制作（スタジオ）		
担当教員名	加藤 亮介		
ナンバリング	KJf455		
学 科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

「映像制作基礎」の理解を前提として、実際に放送番組制作を想定した応用技術を学んでいく。

科目の概要

番組制作を理解するために、

VTR制作を通して映像文脈を学習し、その上で放送の工程、放送機材の操作方法を学習する。

学修目標（＝到達目標）

- ・映像文脈の応用的理解
- ・放送工程－の理解
- ・放送機材の操作方法的習得

本講義は、チームを構築し凝縮した制作演習を行う都合上、人数制限を行う可能性がある。

内容

毎時間、課題があり新しいことを学習していきますので、欠席しないようにしてください。

1	イントロダクション
2	番組制作のワークフロー
3	撮影技術
4	撮影技術
5	編集技術
6	編集技術
7	映像分析
8	映像分析
9	企画・制作(グループワーク)
10	企画・制作(グループワーク)
11	企画・制作(グループワーク)
12	放送技術
13	放送技術
14	発表会
15	まとめ

評価

授業内課題（60点）、授業参加度（40点）の合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業前に、チームごとに企画立案・課題制作を積極的に進めておくこと。

【事後学修】授業内容をもとに、チームごとに企画立案・課題制作を深めておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

科目名	音声制作（ラジオドラマ）		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング	KJf456		
学 科	人間生活学部（K）-メディアコミュニケーション学科（KJ）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

「ラジオ番組制作」や「音声制作（ラジオ）」で学んだことを土台に、発展形としてのラジオドラマ制作に取り組む。当科目は学科ディプロマポリシーの -1.3.4および -3、 -4に該当する。

科目の概要

- 1.朗読番組
- 2.ラジオドラマ制作

制作した番組は試聴会を行い、相互に評価をする。

学修目標（＝到達目標）

ラジオという音声メディアにおける表現の可能性を追求し、発信できる力を身につける。

内容

授業はグループワークとディスカッション、演習形式を取り混ぜて行う。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 番組制作 番組企画書
- 第3回 台本作成(1)
- 第4回 台本作成(2)
- 第5回 収録(1)
- 第6回 収録(2)、編集(1)
- 第7回 編集(2)
- 第8回 ミックスダウン エンコード 試聴会
- 第9回 番組制作 番組企画書
- 第10回 台本作成(1)
- 第11回 台本作成(2)
- 第12回 収録(1)
- 第13回 収録(2)、編集(1)
- 第14回 編集(2)
- 第15回 まとめ ミックスダウン エンコード 試聴会

授業の進度は作業の進捗状況などから判断して調整することがあります。

評価

平常点、授業参加態度など40%、提出物の評価60%..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

なお、規定の提出物が出ていない場合は評価できません。

【フィードバック】各回の冒頭に質疑応答を行う

授業外学習

【事前予習】日常的にラジオ番組をよく聴きこんでおくこと。もしラジオを持っていなくても手持ちのスマートフォンアプリやパソコンなどで簡単に聴取できます（毎日15分～30分程度）。

【事後学修】取材や編集など、授業のペースに合わせて適宜行う（各授業に対し60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用せず、推薦書については随時紹介する。

科目名	基礎ゼミナール		
担当教員名	田総 恵子、川瀬 基寛、石野 榮一		
ナンバリング	KJh165		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科学位授与方針3に該当する。

1年生後期必修科目として、「入門ゼミナール」に引き続き大学生としての学修方法を学ぶとともに、メディアコミュニケーション学科で学ぶ内容を理解する。

まず、学科の講義分野(メディア社会、メディア文化、メディアデザイン、メディアデュース)の内容とその関連性を学び、本学科で学ぶこと、学べることを理解する。その上でメディアを活用した企画や作品制作の基本を学ぶ。後半は、企画、構成、役割分担など、1つの課題を達成するために必要な一連の作業の流れを学び、最後にグループに分かれて課題に取り組む。

大学での学びの基本を確実に理解し、それをグループでの作業に活かす能力を身につける。さらに2年生以降に履修する「ワークショップ」や「演習」、「卒業研究」などの科目に能動的に取り組む態度を養う。

内容

この授業は講義を中心に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンを取り入れながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション：学科での学び
2	科目群の概要(1)：メディア社会
3	科目群の概要(2)：メディア文化
4	科目群の概要(3)：メディアデザイン
5	科目群の概要(4)：メディアプロデュース
6	課題型学習の基礎(1)：問題発見と課題設定
7	課題型学習の基礎(2)：アイデアの開発と実行
8	模擬演習(1)：問題発見と課題設定
9	模擬演習(2)：アイデアの開発と実行
10	課題の解決と評価
11	グループ作業(1)：プロジェクト設定
12	グループ作業(2)：企画・構成・役割分担
13	グループ作業(3)：制作
14	発表
15	まとめ

評価

授業への参加度（30%）、課題（30%）レポート（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】レポートの総評は授業で発表、希望者には個々のコメントをつけて返却

授業外学習

【事前準備】教科書、推薦書の中で授業内容に関連する部分を読み、A 5 1 枚程度にまとめる。（各授業に対して30分）

【事後学修】テーマごとの課題を行う。（各授業に対して30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】中澤務・森貴史・本村康哲編 『知のナビゲーター』 くろしお出版、1800円

【推薦書】松本茂・河野哲也 『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』 玉川大学出版部 1470円

科目名	ワークショップ		
担当教員名			
ナンバリング	KJh266		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

学内外での、目的を明確にしたプロジェクトへの参加に対して単位を認める科目であり、必ずしも定時の授業を行う形態ではない。

メディア制作、地域連携活動等をグループで行う、プロジェクト学修型の授業形態である。

科目の概要

メディア制作や地域連携活動等、学科教員より提案されたプロジェクトに応募し、

各プロジェクトの活動毎に、目標設定、実践、振り返り、評価が行われる。

学修目標 (= 到達目標)

プロジェクト学修を通して、汎用的能力を養成する。

1. 協働作業において必要な、対人基礎力(発信力、傾聴力)を向上させる。
2. プロジェクト進行において必要な、対課題基礎力(課題発見力、計画力)を向上させる。
3. アウトプットに必要な、基礎的メディア活用力(情報収集力、情報分析力)を向上させる。

内容

学科教員がプロジェクトを提案し募集を行う。内容は学科行事および学科専門課程に関わるものである。

活字領域、映像領域、音楽領域、web領域、地域課題解決等、企画されたそれぞれの領域で、目標設定、実践、振り返り、評価が行われる。

プロジェクトは共通して下記のプロセスを消化する。

- ・課題発見、計画、役割分担、情報収集、制作実践、効果検証、振り返り、評価
- 尚、制作活動に必要な個別のスキルについては同時に演習を行う場合がある。

評価

担当教員が、活動・実践状況50%、実際の制作物50%を評価対象とし、

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】活動やプロジェクトの内容を理解し、目標設定を明確にする

【事後学修】グループ内でのふりかえりを行い、個人としての反省点も明確にする

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

科目名	ワークショップ		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング	KJh266		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 メディアコミュニケーション学科の学位授与方針2,3に該当。

留学生を対象にした科目で授業で、繰り返し受講が可能です。学内外の事物、事柄、記事などの材料を通し、日本語の読解力、表現力、発話力の向上を目指し、学習を進めます。通常の授業形態で行いますが、時に教室外での調査なども行います。

科目の概要

さまざまな資料 (新聞、雑誌の記事、自ら撮影した写真など) をもとに、自分の考えを的確にまとめ、表現するとを目標に、総合的な日本語力を高める。

学修目標 (= 到達目標)

1. コミュニケーション力を向上させる。
2. 他人の言葉に耳を傾け、理解する能力 (柔軟性) を向上させる。
3. 自己の課題を発見し、その解決のための、計画立案力、実践力を向上させる。

内容

このワークショップは学科留学生を対象に開講される。日本文化、日本社会に関連したテーマをもとに、最終目標は「日本語力」を向上させ、日本語能力試験などの「日本語資格試験合格」を目指す。授業はグループワーク、発表ディスカッションなどの形態をとって行う。

毎回、次の項目の学習を行う予定で、どの項目においても形に残る制作物を作成する。

- ・ 「読む」：様々な分野からの読み物を理解し、意見を発表する。
- ・ 「聞く」：日常の話し言葉からプレゼンテーションなどの公的な内容のものまで、さまざまな階層の日本語を聞き取る練習を行う。
- ・ 「話す」：発音練習を行いながら、公的な場での発表練習を行う。
- ・ 「書く」：日頃「書く」機会が少ないので、メールの書き方からレポート作成まで練習を行う。
メール送信、PC作業の確認も同時に行う。
- ・ 「資格」：上記に学習と同時に、基本的な文法、語彙の練習も継続する。

評価

平常点 (毎回の授業で指示する課題の完成・授業への参加度) : 40%、筆記試験 : 60% とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合は再試験を行う。 フィードバック : 提出された課題はコメントを記載し、翌週以降に授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】各回のテーマ (自己紹介、学内探索など) にかんして、課題を完成させるためのプランを考えて、ノートにま

とめる。

【事後学修】添削を受けた提出物を、次回までにワードで完成させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は第1回目の授業で指示する。

科目名	ワークショップ		
担当教員名	加藤 亮介		
ナンバリング	KJh366		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

学内外での、目的を明確にしたプロジェクトへの参加に対して単位を認める科目であり、必ずしも定時の授業を行う形態ではない。

メディア制作、地域連携活動等をグループで行う、プロジェクト学修型の授業形態である。

科目の概要

メディア制作や地域連携活動等、学科教員より提案されたプロジェクトに応募し、

各プロジェクトの活動毎に、目標設定、実践、振り返り、評価が行われる。

学修目標 (= 到達目標)

ワークショップ を踏まえ、

プロジェクト学修を通して、汎用的能力のさらなる向上と、具体的メディア活用・制作技能を習得を目標とする。

1. 協働作業において必要な、対人基礎力(発信力、傾聴力)を向上させる。
2. プロジェクト進行において必要な、対課題基礎力(課題発見力、計画力)を向上させる。
3. アウトプットに必要な、基礎的メディア活用力(情報収集力、情報分析力)を向上させる。
4. 参加プロジェクトにおいて必要とされる、メディア活用・制作技能を習得する。

内容

学科教員がプロジェクトを提案し募集を行う。内容は学科行事および学科専門課程に関わるものである。

活字領域、映像領域、音楽領域、web領域、地域課題解決等、企画されたそれぞれの領域で、目標設定、実践、振り返り、評価が行われる。

プロジェクトは共通して下記のプロセスを消化する。

・課題発見、計画、役割分担、情報収集、制作実践、効果検証、振り返り、評価
尚、制作活動に必要な個別のスキルについては同時に演習を行う場合がある。

評価

担当教員が、活動・実践状況50%、実際の制作物50%を評価対象とし、

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】活動やプロジェクトの内容を理解し、目標設定を明確にする

【事後学修】グループ内でのふりかえりを行い、個人としての反省点も明確にする

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

科目名	ワークショップ		
担当教員名	小笠原 典子		
ナンバリング	KJh366		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 メディアコミュニケーション学科の学位授与方針2,3に該当。

学内外での、目的を明確にしたプロジェクトへの参加に対して単位を認める科目であり、このワークショップは定時の授業形態で行う。社会や文化について様々な授業形態で学ぶ。

科目の概要

学科教員より提案されたプロジェクトに応募し、各プロジェクトの活動ごとに、目標設定、実践、評価が行われる。

学修目標 (= 到達目標)

ワークショップ を踏まえ、プロジェクト学修を通して、汎用的能力を養成する。

1. コミュニケーション力を向上させる。
2. 他人の言葉に耳を傾け、理解する能力 (柔軟性) を向上させる。
3. 自己の課題を発見し、その解決のための、計画立案力、実践力を向上させる。
4. プレゼンテーション・ディベートを通して相互理解を深め、協調して共に成長する力を向上させる。

内容

このワークショップは学科留学生を対象に開講される。日本文化、日本社会に関連したテーマをもとに、最終目標は「日本語力」を向上させ、日本語能力試験などの「日本語資格試験合格」を目指す。授業はグループワーク、発表ディスカッションなどの形態をとって行う。

毎回、次の項目の学習を行う予定で、どの項目においても形に残る制作物を作成する。

- ・ 「読む」：様々な分野からの読み物を理解し、意見を発表する。
- ・ 「聞く」：日常の話し言葉からプレゼンテーションなどの公的な内容のものまで、さまざまな階層の日本語を聞き取る練習を行う。
- ・ 「話す」：発音練習を行いながら、公的な場での発表練習を行う。
- ・ 「書く」：日頃「書く」機会が少ないので、メールの書き方からレポート作成まで練習を行う。
メール送信、PC作業の確認も同時に行う。
- ・ 「資格」：上記に学習と同時に、基本的な文法、語彙の練習も継続する。

評価

平常点 (毎回の授業で指示する課題の完成・授業への参加度) : 40%、筆記試験 : 60% とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合は再試験を行う。 フィードバック : 提出された課題はコメントを記載し、翌週以降に授業内で返却する。

授業外学習

【事前準備】各回のテーマ (日本の紹介、気になるニュースなど) にかんして、課題を完成させるためのプランを考えて、

ノートにまとめる。

【事後学修】添削を受けた提出物を、次回までにワードで完成させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は第1回目の授業の際に指示する。

科目名	演習		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング	KJh467		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究に向けての応用力を高める。当科目は学科ディプロマポリシーの -3.4、 -2.3、 -2に該当する。

科目の概要

ゼミのテーマである音楽、音響コンテンツ制作のためのより専門的な知識と技術を獲得しつつ、作品制作を行います。

学修目標 (= 到達目標)

音楽制作のプロセスを理解し、制作ツールを使いこなしてコンテンツを制作することができる。
情報発信者としてのリテラシーを身につける。

内容

授業は演習中心に講義とディスカッションを取り入れつつ行う。

1. MIDI入力とエディット
2. 音源 (ソフトシンセ) のエディット
3. オーディオ素材のエディット
4. エフェクト研究
5. ミキシング、エンコード
6. SoundCloudへのアップロードとシェア スマートフォンアプリとの連携
7. ブラウザによる音楽制作
...Webアプリ、audiotoolを用いた音楽作品制作
8. ボーカロイド演習
...ボーカロイドのエディット、作品制作、アップロード
9. BGM制作
...映像付随音楽の研究。オーディオループ素材、MIDI入力などを総合的に活用して動画に対してBGMを制作する

進度は各自の学習状況に合わせて調整します。

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】各回の冒頭に質疑応答を行う。

授業外学習

【事前予習】日常的にクリエイター目線で能動的かつ分析的に音楽作品を聴きこむ（毎日40分程度）。

【事後学修】課題に取り組むことによって技術をしっかりと身に付ける（各授業に対し60分）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】いちばんわかりやすいDTMの教科書 松前公高 著 リットーミュージック

科目名	演習		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング	KJh467		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針 1、2 に該当

メディアコミュニケーション学科専門科目 (必修)

科目の概要

卒業研究につながる演習として、メディアと教育、社会に関する様々な事柄を幅広く学びます。

学修目標

- ・メディアと教育に関する理論背景を理解する
- ・関連するICT技術を習得する

内容

ICT (情報通信技術) の普及により、教育分野 (学校、生涯学習) では、e-learningに代表される様々な教育方法が実践されています。その目的は、メディアは情報を伝えるコミュニケーションの手段と捉え、それを効果的活用することにより如何に高い教育効果をあげることができるか、ということです。そのためには、単にコンピュータやインターネットを活用することだけでなく、対象となる学習者の状況を知ること、どのような教材 (コンテンツ) であればいいのか、活用の方法はどうか等、様々なこと (要因) を検討する必要があります。ゼミでは、こうしたICT活用に関する教育の背景や理論とICT活用の技術 (Webページ、アニメーション、編集) を学びます。

内容にかかわる基礎的な部分は、他のゼミと合同で実施する場合もある。

空き時間などは積極的に学習の機会を作り、目的意識を持って問題に取り組んでほしい。

評価

レポートの状況、および日常の学習の状況で判断する。当然のことながら、毎回出席すること。

日常のゼミでの取り組み状況30%、ゼミでの課題50%、プレゼンテーション20%とし、合計60%以上で合格とする。

授業外学習

【事前予習】テーマに関する資料の準備 (60分)

【事後学修】事後評価 (60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

指定しない

科目名	演習		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング	KJh467		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	3	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科学位授与方針 1、2、3 に該当する。

3 年次演習として、現代社会や文化の動向を深く理解する。

この演習では、現代社会の諸問題を取り上げる。グローバル化が進む中、国際社会の出来事と日本国内の動きが密接な関係を持つようになってきた。政治、経済、社会、文化の側面で今何が起きているのか。地域社会、国、国際社会などのレベルでの動きを検討し、個々の問題の特徴を捉えていく。個人のレベルでの行動が国や国際社会の動向にどのように関連しているか、現代社会の問題を体系的に捉える視点を重視したい。

現代社会のテーマを理解するだけでなく、自ら課題設定から調査法、結果のまとめ方など、レポート、論文の書き方の基本について学ぶ。

内容

この授業では、ディスカッションやグループワークを通じて、現代社会の諸問題を自ら発見し、それについての理解を深める。

第1回～第3回：自己紹介とテーマ設定

第4回～第11回：基本的文献についての討論、参考文献、情報の収集方法

第12回～第14回：ゼミ・レポートの執筆と提出

第15回：レポート講評

評価

発表、討論への参加 (40%)、レポート (60%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】翌週の授業で講評

授業外学習

【事前予習】課題の文献を読んで、内容をまとめ、わからなかった点をメモしておく。(各授業に対して45分)

【事後学修】演習でのディスカッションを参考にして、わからなかった点についての説明を記録する。(各授業に対して30分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】 適宜資料を配布

科目名	演習		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング	KJh467		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1, 2, 3に該当する。

本科目はマスメディア、ネットメディアなどの役割や影響、社会での利用方法について学ぶ。情報を集め取捨選択し、まとめる力を身につける。現代社会の諸問題に興味を持ち、問題意識を持つなどの力を育成するものである。

科目の概要

時事問題の検討、現場訪問としてのフィールドスタディ、本を読みレジユメを作成しての発表、自分の関心により選んだテーマで論文の技法に則ってのレポート作成などを予定している。

学修目標 (= 到達目標)

自分の興味・関心からテーマを選び、自分で調べ考え文章にまとめていく力を身につける。自分の視点でものを見ること・考える力を身につけることをねらいとする。

内容

この授業は自分のテーマを研究して議論する、時事問題を取り上げその問題と解決策を議論しながら現代社会への理解を深めていく。

- ・時事問題-各自の関心に沿ってテーマを選び、議論を行う事によって理解を深める。
- ・学外訪問-少子高齢化に関わるサービス事業者や介護・保育の現場、裁判の傍聴など学生の関心によって訪問先を決め現場の人に学ぶ
- ・本を読みレジユメを作成しての発表-学生の関心に沿って本を選び発表する。著者の主張の理解、自分の視点からの問題提起を行う。
- ・レポート-自分の関心によりテーマを選定、論文・レポートの技法に則ったレポートの作成

評価

平常点 (40%) とゼミでの発表・提出物 (60%) の総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業で取り上げる問題への疑問・意見などに回答する。

授業外学習

【事前予習】自分のテーマについて基礎知識を修得し、問題点を把握する。(各授業に対して30 - 60分)

【事後学修】自分のテーマについて授業での議論から問題点、解決策を再検討する。(各授業に対して30 - 60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【推薦書】山田昌弘「新平等社会」文藝春秋 文春文庫

科目名	演習		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング	KJh467		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針の1、2に該当する。

新聞、テレビ、ラジオといった一方通行型のメディアと双方向型の特徴を持つインターネットメディアについて、各メディアの歴史、それぞれの差異、役割を全般的・横断的に学ぶ。さらに限定された地域を対象にしたいわゆる「地域メディア」(主に新聞、テレビ、ラジオ、フリーペーパー等)に焦点を当て、地域社会でメディアが果たす役割について学んでいく。また、新聞を読み込み、意見発表や表現活動に取り組みながらニュース感覚を養い、さらにはコミュニケーション能力の向上にもつなげる。将来の職業について受講生が意識できるテーマにも取り組む。

内容

この授業は、資料収集・分析、フィールドワーク、グループワークを中心に進める。

本ゼミでは、マスコミ4媒体(新聞・テレビ・ラジオ・雑誌)およびインターネットメディアのそれぞれの歴史、役割、特徴を大枠で理解する。その上で、限定したエリアを対象とした「地域メディア」を取り上げ、地域性とメディアの関連性、生活とメディアの関係性などを全国各地の具体的な事例を調べながら理解を深めていく。また、コミュニケーション能力や表現力を養うため、ゼミ新聞等の制作にも取り組む。

さらに、現場感覚を理解するため実際に新聞社、出版社、テレビ局等の見学に加え、本学で展開しているフリーペーパー制作やWEB制作等の取材にゼミ生の立場から学生記者として積極的に関わる。

これら座学・学外授業の連環性と相乗効果の中で、一年後の「卒業研究」テーマを設定し、情報・資料収集に努め、卒研の骨格づくりを進める。就職を意識し、必要な準備にも随時取り組む。

評価

授業への参加度50%、課題への意欲・関心、ゼミ運営への貢献度50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業ごとに前回授業の内容を確認し、学生の質問を受けながら理解を深める。作成した原稿は添削し返却する。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。日々のニュース報道に自主的に接すること。(各授業に対して60分)

【事後学修】学んだテーマを掘り下げる。ニュースを通じて社会の動向、事象の背景などを考察する。取材を踏まえた原稿の作成に取り組む。(各授業に対し60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

地方紙、フリーペーパーなどの地域メディアを参考にする。必要に応じてメディア関連の書籍を紹介する。

【参考図書】記者ハンドブック(共同通信社刊)

科目名	演習		
担当教員名	加藤 亮介		
ナンバリング	KJh467		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	3	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

「卒業研究」の前段階として、研究テーマについて個別・グループで検討していく科目である。

科目の概要

「テーマ」を設定して、実際に調査・発表・議論を行う。

各々の卒業研究のテーマ、手法については演習内で議論し、より良いものにしていく。

また、卒業研究領域に関係する専門技能の獲得・資格取得などにも目を向ける。

学修目標 (= 到達目標)

1. 問題意識を持ってテーマを見つけ、それを調査する意義を見出すことができること。
2. 調査・発表・議論の方法を理解し、よりよい結果に向けてグループで議論ができること。
3. それぞれの「制作」の手法を自分で選択し、専門知識・技能を得ること。

内容

15回のゼミを、以下のスケジュールで行う予定である。

- (1) イントロダクション1
- (2) イントロダクション2
- (3) ~ (14) メディア研究
- (15) まとめ

評価

参加態度 (50%) 調査・発表における評価 (50%)

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

事前 自分の研究テーマについて、定期報告の準備を行ってくる。

事後 定期報告、ディスカッションの内容を必ず消化して、次回報告へと繋げる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	川瀬 基寛		
ナンバリング	KJh467		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	3	ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1、2に該当する。

本科目はメディアコミュニケーション学科演習科目である。

3年次後期の演習2および4年次の卒業研究に向けての応用力を育成する。

科目の概要

ゼミのメインテーマ (映像、グラフィックデザインなどの制作およびメディア・リテラシー研究) に関する知識および作品制作を行う。

自主的に調査・研究する 計画的に制作する 発表するという3つを円環的に行い、アクティブラーニングとしてのグループワークを通じて、実社会への適応能力を育成する。

学習目標 (= 到達目標)

- ・制作プロセスの理解とデザイン理論を応用できる力を習得する。
- ・メディアリテラシー能力を向上させ、情報発信者としてメディア表現の様々な知識獲得とクリエイティブマインドを育成する。

内容

4年次の卒業研究に向けて、各自でテーマを選択し発表・制作を行います。

企画構成演習やデザイン理論の発展形、映像技術や写真技術を学び、メディア・リテラシーおよびメディア表現能力の向上を目指します。

特にデザイン系 (グラフィックデザイン)、映像系 (実写、写真、モーショングラフィックス、アニメーション) を重視していきます。

卒業研究に向けて、グループまたは単独による中間発表がありますので、主体的に取り組む姿勢が不可欠です。

地域連携として外部への作品提供、外部コンペティションへの応募など、作品制作の機会が増えます。

クリエイティブ系への就職に向け、ポートフォリオ作成 (作品集) のための準備をします。

評価

発表 (20%)、課題・作品 (50%)、参加度 (30%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 毎授業の最初に前回授業の意見や振り返りをするすることで、様々な視点から理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】 ポートフォリオ作成 (作品集) のための準備を怠らない。 (各60~90分)

【事後学修】ポートフォリオ作成（作品集）のための準備を怠らない。（各60～90分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じてプリント・PDFファイル・データファイルを配布

【推薦書】授業内で提示

【参考図書】授業内で提示

科目名	演習		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング	KJh567		
学 科	人間生活学部 (K) -メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究に向けての応用力を高める。当科目は学科ディプロマポリシーの -3.4、 -2.3、 -2に該当する。

科目の概要

ゼミのテーマである音楽、音響コンテンツ制作のためのより専門的な知識と技術を獲得しつつ、作品制作を行います。

学修目標 (=到達目標)

音楽制作のプロセスを理解し、制作ツールを使いこなしてコンテンツを制作することができる。
情報発信者としてのリテラシーを身につける。

内容

授業は演習中心に講義とディスカッションを取り入れつつ行う。

1. ブラウザによる音楽制作

...Webアプリ、audiotoolを用いた音楽作品制作

2. ボーカロイド演習

...ボーカロイドのエディット、作品制作、アップロード

3. BGM制作

...映像付随音楽の研究。オーディオループ素材、MIDI入力などを総合的に活用して動画に対してBGMを制作する

進度は各自の学習状況に合わせて調整します。

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】各回の冒頭に質疑応答を行う。

授業外学習

【事前予習】日常的にクリエイター目線で能動的かつ分析的に音楽作品を聴きこむ。また、映画鑑賞やテレビ番組を視聴する際も背景の「音」に着目してみることを習慣にする(毎日40分程度)。

【事後学修】課題に取り組むことによって技術をしっかりと身に付ける(各回に対し60分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】いちばんわかりやすいDTMの教科書 松前公高 著 リットーミュージック

ボーカロイドを思い通りに歌わせる本 Nagie 著 リットーミュージック

科目名	演習		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング	KJh567		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1、2に該当

メディアコミュニケーション学科専門科目 (必修)

科目の概要

卒業研究につながる演習として、メディアと教育、社会に関する様々な事柄を幅広く学びます。

学修目標

- ・メディアと教育に関する理論背景を理解する
- ・関連するICT技術を習得する

内容

ICT (情報通信技術) の普及により、教育分野 (学校、生涯学習) では、e-learningに代表される様々な教育方法が実践されています。その目的は、メディアは情報を伝えるコミュニケーションの手段と捉え、それを効果的活用することにより如何に高い教育効果をあげることができるか、ということです。そのためには、単にコンピュータやインターネットを活用することだけでなく、対象となる学習者の状況を知ること、どのような教材 (コンテンツ) であればいいのか、活用の方法はどうか等、様々なこと (要因) を検討する必要があります。ゼミでは、こうしたICT活用に関する教育の背景や理論とICT活用の技術 (Webページ、アニメーション、編集) を学びます。

内容にかかわる基礎的な部分は、他のゼミと合同で実施する場合もある。

空き時間などは積極的に学習の機会を作り、目的意識を持って問題に取り組んでほしい。

評価

レポートの状況、および日常の学習の状況で判断する。当然のことながら、毎回出席すること。

日常のゼミでの取り組み状況30%、ゼミでの課題50%、プレゼンテーション20%とし、合計60%以上で合格とする。

授業外学習

【事前予習】テーマに関する資料の準備 (60分)

【事後学修】事後評価 (60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

指定しない

科目名	演習		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング	KJh567		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	3	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科学位授与方針 1、2、3 に該当する。

演習 に続けて履修し、卒業研究の準備を行う。

現代社会における政治、経済、社会、文化の動きに関連したテーマを取り上げて話し合い、個々に論文のテーマになりそうな分野を絞り始める。それぞれのテーマについてさらに話し合い、卒業論文につながる研究、調査の計画を立てていく。個々のテーマ、調査法について互いに意見を述べ合う機会を重視して、議論中心に演習を進める。

学期末に発表する論文を、卒業研究の第 1 段階と位置づけられるものとする。要望があれば、学園祭等でそれまでの調査結果を発表することも支援する。

内容

この授業では、ディスカッション、ディベート、プレゼンを通じて、現代社会の諸問題についての理解を深め、それを発表する能力を身に付ける。

第1 回～第4 回：後期ゼミ・レポートのテーマ選択、問題提起

第5 回：テーマ発表

第6 回～第13 回：リサーチの経過報告・卒論への展開

第14 回：レポート体裁確認・提出

第15 回：レポートの最終発表

評価

発表・討論への参加 (30%) レポート (70%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】発表後講評

授業外学習

【事前予習】 それぞれのテーマについての情報を集め、A 5 1 枚に記録する。(各授業に対して60分)

【事後学修】 発表に対するコメントを参考に、情報を整理、分析し、A 4 1 枚にまとめる。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【推薦書】 白井利明・高橋一郎 『よくわかる卒論の書き方』第 2 版 ミネルヴァ書房 2013年

【参考図書】 藤田真文 『メディアの卒論』 ミネルヴァ書房 2011年

科目名	演習		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング	KJh567		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1, 2, 3に該当する。

本科目はマスメディア、ネットメディアなどの役割や影響、社会での利用方法について学ぶ。情報を集め取捨選択し、まとめる力を身につける。現代社会の諸問題に興味を持ち、問題意識を持つなどの力を育成するものである。

科目の概要

時事問題の検討、現場訪問としてのフィールドスタディ、本を読みレジユメを作成しての発表、自分の関心により選んだテーマで論文の技法に則ってのレポート作成などを予定している。

学修目標 (= 到達目標)

自分の興味・関心からテーマを選び、自分で調べ考え文章にまとめていく力を身につける。自分の視点でものを見ること・考える力を身につけることをねらいとする。

内容

この授業は自分のテーマを研究して議論する、時事問題を取り上げその問題と解決策を議論しながら現代社会への理解を深めていく。

- ・ 時事問題 - 各自の関心・視点による切り口から問題提起を行い質問・議論を行う事によって理解を深める。
- ・ ディベート - 効果的な討論の仕方を学ぶ。
- ・ ゼミ論 - 自分の関心によりテーマを選びレポートを作成、その内容をゼミで発表・議論する。

評価

平常点 (40%) とゼミでの発表・提出物 (60%) の総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業で取り上げる問題への疑問・意見などに回答する。

授業外学習

【事前予習】自分のテーマについて基礎知識を修得し、問題点を把握する。(各授業に対して30 - 60分)

【事後学修】自分のテーマについて授業での議論から問題点、解決策を再検討する。(各授業に対して30 - 60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【推薦書】池上彰「ニュースの読み方使い方」新潮社 新潮文庫

科目名	演習		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング	KJh567		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針の1、2に該当する。

新聞、テレビ、ラジオといった一方通行型のメディアと双方向型の特徴を持つインターネットメディアについて、各メディアの歴史、それぞれの差異、役割を全般的・横断的に学ぶ。さらに限定された地域を対象にしたいわゆる「地域メディア」(主に新聞、テレビ、ラジオ、フリーペーパー等)に焦点を当て、地域社会でメディアが果たす役割について学んでいく。また、新聞を読み込み、意見発表や表現活動に取り組みながらニュース感覚を養い、さらにはコミュニケーション能力の向上にもつなげる。将来の職業について受講生が意識できるテーマにも取り組む。

内容

この授業は、資料収集・分析、フィールドワーク、グループワークを中心に進める。

本ゼミでは、マスコミ4媒体(新聞・テレビ・ラジオ・雑誌)およびインターネットメディアのそれぞれの歴史、役割、特徴を大枠で理解する。その上で、限定したエリアを対象とした「地域メディア」を取り上げ、地域性とメディアの関連性、生活とメディアの関係性などを全国各地の具体的な事例を調べながら理解を深めていく。また、コミュニケーション能力や表現力を養うため、ゼミ新聞等の制作にも取り組む。

さらに、現場感覚を理解するため実際に新聞社、出版社、テレビ局等の見学に加え、本学で展開しているフリーペーパー制作やWEB制作等の取材にゼミ生の立場から学生記者として積極的に関わる。

これら座学・学外授業の連環性と相乗効果の中で、一年後の「卒業研究」テーマを設定し、情報・資料収集に努め、卒研の骨格づくりを進める。就職を意識し、必要な準備にも随時取り組む。

評価

授業への参加度50%、課題への意欲・関心、ゼミ運営への貢献度50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業ごとに前回授業の内容を確認し、学生の質問を受けながら理解を深める。作成した原稿は添削し返却する。

授業外学習

【事前予習】提示する課題の予習を行う。日々のニュース報道に自主的に接すること。(各授業に対して60分)

【事後学修】学んだテーマを掘り下げる。ニュースを通じて社会の動向、事象の背景などを考察する。取材を踏まえた原稿の作成に取り組む。(各授業に対し60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

地方紙、フリーペーパーなどの地域メディアを参考にする。必要に応じてメディア関連の書籍を紹介する。

【参考図書】記者ハンドブック(共同通信社刊)

科目名	演習		
担当教員名	加藤 亮介		
ナンバリング	KJh567		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	3	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

「卒業研究」の前段階として、研究テーマについて個別・グループで検討していく科目である。

科目の概要

「テーマ」を設定して、実際に調査・発表・議論を行う。

各々の卒業研究のテーマ、手法については演習内で議論し、より良いものにしていく。

また、卒業研究領域に関係する専門技能の獲得・資格取得などにも目を向ける。

学修目標 (= 到達目標)

1. 問題意識を持ってテーマを見つけ、それを調査する意義を見出すことができること。
2. 調査・発表・議論の方法を理解し、よりよい結果に向けてグループで議論ができること。
3. それぞれの「制作」の手法を自分で選択し、専門知識・技能を得ること。

内容

15回のゼミを、以下のスケジュールで行う予定である。

- (1) イントロダクション1
- (2) イントロダクション2
- (3) ~ (14) メディア研究
- (15) まとめ

評価

参加態度 (50%) 調査・発表における評価 (50%)

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

事前 自分の研究テーマについて、定期報告の準備を行ってくる。

事後 定期報告、ディスカッションの内容を必ず消化して、次回報告へと繋げる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	川瀬 基寛		
ナンバリング	KJh567		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	3	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1、2に該当する。

本科目はメディアコミュニケーション学科演習科目である。

4年次の卒業研究に向けての応用力を育成する。

科目の概要

ゼミのメインテーマ (映像、グラフィックデザインなどの制作およびメディア・リテラシー研究) に関する知識および作品制作を行う。

自主的に調査・研究する 計画的に制作する 発表するという3つを円環的に行い、アクティブラーニングとしてのグループワークを通じて、実社会への適応能力を育成する。

学習目標 (= 到達目標)

- ・制作プロセスの理解とデザイン理論を応用できる力を習得する。
- ・メディア・リテラシー能力を向上させ、情報発信者としてメディア表現の様々な知識獲得とクリエイティブマインドを育成する。

内容

4年次の卒業研究に向けて、各自でテーマを選択し発表・制作を行います。

企画構成演習やデザイン理論の発展形、映像技術や写真技術を学び、メディア・リテラシーおよびメディア表現能力の向上を目指します。

特にデザイン系 (グラフィックデザイン)、映像系 (実写、写真、モーショングラフィックス、アニメーション) を重視していきます。

卒業研究に向けて、グループまたは単独による中間発表がありますので、主体的に取り組む姿勢が不可欠です。

地域連携として外部への作品提供、外部コンペティションへの応募など、作品制作の機会が増えます。

クリエイティブ系への就職を考えて、ポートフォリオ作成 (作品集) ・提出が必須となります。 (クリエイティブ系への専門就職を考えていない場合でも必須です)

評価

発表 (20%)、課題・作品 (50%)、参加度 (30%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 毎授業の最初に前回授業の意見や振り返りを行うことで、様々な視点から理解を深められるようにする。

授業外学習

【事前準備】ポートフォリオ作成（作品集）を怠らない。（各60～90分）

【事後学修】ポートフォリオ作成（作品集）を怠らない。（各60～90分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】必要に応じてプリント・PDFファイル・データファイルを配布

【推薦書】授業内で提示

【参考図書】授業内で提示

科目名	卒業研究		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング	KJh568		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1、2に該当
学科専門科目の必修科目である。

科目の概要

3年次までに修得した知識・技術に基づき、学生自らが特定の具体的課題に対して主体的に取り組み、最終的にその成果を卒業研究としてまとめる。学部での学修の集大成として、この1年間を実りあるものにすることを期待する。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究、卒業論文を仕上げる。

内容

内容としては、メディア、インターネットなどといった情報技術を応用して、主に教育分野 (学校、生涯) へ適応できる情報システム、コンテンツのあり方、及び開発を念頭に置く。

方法は、実験を主とした研究、調査を主とした研究、測定を主とした研究、資料・文献による研究、作品・コンテンツを中心とした研究、などによる。

いずれも論文と成果物 (作品、コンテンツ、プログラム) を必要とし、研究にあたり各自テーマを設定し、計画的に進めることが必要である。

3年次終了時に、仮テーマを決定する。

4年前期は、基本的な情報収集、開発するコンテンツやシステムの設計、研究テーマ、目的・研究方法の確立をし、夏休み前には具体的な計画に従って研究が遂行できるように準備を進める。

4年後期は、それぞれの計画に従って研究を進め、最終的な研究を仕上げる。

研究テーマは、学生各自で異なるので、適当な時間を使いながら定期的のうち合わせ、進捗状況の報告などを行うこととする。

評価

卒業研究として内容・方法が適切なものであるか、また、論文・作品が期日までに提出され、卒研発表会でのプレゼンテーションが適当であったかを評価の対象にする。論文の内容・成果物を60%、発表会でのプレゼンテーション40%とし、合計評価が60%以上で合格とする。

授業外学習

【事前予習】卒業研究に必要な調査、実験、制作などをおこなう (60分)

【事後学修】論文等の形式で正課をまとめる(60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

指定しない

科目名	卒業研究		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング	KJh568		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科学位授与方針 1 , 2 , 3 に該当する。

3 年次の「演習 ・ 」で学んだ日本及び国際社会の特徴についての知識をさらに発展させ、個々のテーマに焦点を当てた調査、研究を行う。単なる情報収集の段階から、集めた情報の体系的整理・分類と分析へ進み、分析結果の社会的及び学問的意義の検証の段階へと発展させていく。

前期は情報収集と整理、後期は集めた情報の体系的分類と分析に重点を置き、分析結果の社会的及び学問的意義の検証を行う。適宜発表を行い、発表者の論文を読者として読み、理解しにくい点を指摘し、改善のための議論を行う。

議論を通じて明確な文章を備えた、わかりやすい文章作成を行う。

これまでの卒業論文のテーマ

「食と地球環境問題」、「エコロジー流行の実態」、「企業の社会的責任」、「自然と共存する経済」、「異文化理解と教育」、「イラク戦争開戦の背景」、「小国の独立 - 少数民族の民族意識」、「ディズニーの買わせる技」、「ジブリとディズニーから見る現代に息づく日本の思想」など。

内容

この授業では、フィールドワーク、プレゼン、ディスカッションを通じて、現代社会の諸問題を発見、整理し、論文あるいは制作物の形で他者にわかりやすく伝える力を身に付ける。

前期

第1 回～第5 回：個々のテーマ選択、問題提起

第6 回～第11 回：テーマに関する情報収集

第12 回～第14 回：テーマ発表会用のプレゼンテーション準備

第15 回：テーマ発表会

後期

第1回～第5回：リサーチの経過報告

第6回：テーマの最終決定

第7回～第11回：リサーチ及び論文執筆

第12回～第14回：論文形式の最終確認

第15回：卒論発表会

評価

発表・討論への参加(25%)、中間報告(25%)、卒業論文または制作物(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出物については、翌週以降の授業でコメント

授業外学習

【事前予習】それぞれのテーマについて情報を収集し、発表の準備をする。(各授業に対して60分)

【事後学修】発表後の議論で指摘された点を参考に、文章化する。(各授業に対して60分)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業で指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	川口 英俊		
ナンバリング	KJh568		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1, 2, 3に該当する。

本科目はマスメディア、ネットメディアなどの役割や影響、社会での利用方法について学ぶ。情報を集め取捨選択し、まとめる力を身につける。現代社会の諸問題に興味を持ち、問題意識を持つなどの力を育成するものである。

科目の概要

自分の興味関心・問題意識によりテーマを選定し、卒業研究としての卒業論文を完成させていく。卒業論文のテーマ、問題意識、目次構成、参考文献を記した卒論中間報告を作成、その上で卒業論文を作成していく

学修目標 (= 到達目標)

十文字学園女子大学において学んできて培った問題意識、研究手法、情報ツールの活用などを卒業論文を完成させることによって結実させ、4年間の総括とする

内容

この授業は自分の卒業研究テーマについて研究の方向性、意見等を発表し、議論を行いながら理解を深めていく。

- ・資料収集 基本的文献、論文、ホームページなどを調べ集めていく。
- ・卒業論文の作成 校正、添削などを通じて推敲していく。
- ・発表 自分の卒業論文について発表し、議論する。

評価

卒業論文(70%)、卒業論文の発表と平常点(30%)の総合評価とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の授業で取り上げる問題への疑問・意見などに回答する。

授業外学習

【事前予習】自分の卒業研究作成の上での問題点、相談事項等をまとめておく。(各授業に対して30 - 60分)

【事後学修】授業での指導を踏まえて卒業研究についての自分の考え・方向性を明確にする。(各授業に対して30 - 60分)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【推薦書】白井利明・高橋一郎「よくわかる卒業論文の書き方」ミネルヴァ書房

科目名	卒業研究		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング	KJh568		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針 1、2 に該当する。

1. 学びの集大成でもある卒業研究をまとめる。
2. コミュニケーション能力を向上させる。
3. 卒業後の進路を具体化する。特に就活を全面的にバックアップする。

内容

この授業は、グループディスカッション、グループワーク、資料収集・分析を中心に進める。

1. 3年次の演習を踏まえ、学生が設定した卒業研究テーマに沿って情報および資料収集を進める。テーマに関しゼミ内で相互に議論を交わすことでテーマの深化を図る。卒業研究を学科の期限までに仕上げる。
2. 学外での取材活動を積極的に行い、ゼミ新聞発行などを通じて取材力、表現力などコミュニケーション全般の能力 (書く力・読む力・話す力・聞く力) を向上させる。
3. 大学時代にこれをやった、と誇ることのできる「集中的な知的作業の達成感」は社会へ巣立つ時の大事な評価である。
社会で競争に勝つ文章力 バランス感覚豊かな編集力から生まれる企画力 人間洞察と数字に裏打ちされた交渉力 日程を踏まえた確かな段取りの力 を能動的な授業を通して総合的に磨き上げ、「就職力・就業力」に収斂させていく。
4. 学生が志望する進路が実現できるよう支援する。

評価

「授業に対する意欲・関心・態度」60%、「論文・課題等執筆」40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業ごとに前授業の内容を確認し、学生の質問を受けながら理解を深める。卒論の進捗状況を見て、学生と意見交換しながら適宜アドバイスをしていく。

授業外学習

【事前予習】卒業論文のテーマに沿った資料収集、論文制作。(各授業に対して必要な時間を確保)

【事後学修】指摘された課題に関し論文の書き直し、資料を用いた確認作業に取り組む。(各授業に対して必要な時間を確保)

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は特になし。卒業論文のテーマに沿った資料を担当教員と相談しながら収集する。

【参考図書】日々の新聞

科目名	卒業研究		
担当教員名	加藤 亮介		
ナンバリング	KJh568		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

「演習」「演習」の理解・準備を踏まえ、「卒業研究論文」または「卒業制作」を行う。

科目の概要

「メディア」に関連するテーマを設定して、調査、分析、執筆・制作を行う。

学修目標 (= 到達目標)

卒業研究として「卒業研究論文」または「卒業制作・副論文」のいずれかでアウトプットする。

内容

15回のゼミを、以下のスケジュールで行う予定である。

- (1) イントロダクション 1
- (2) イントロダクション 2
- (3) ~ (10) 各々の、研究論文・制作等について進捗をプレゼンテーションし、フィードバックを行っていく。

(11) - (14)

論文、制作物についての仕上げ、並びに最終プレゼンテーションの準備を行っていく。

(15) 総括

評価

参加態度 (50%) アウトプットにおける評価 (50%)

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

事前 自分の研究テーマについて、定期報告の準備をおこなう。

事後 定期報告、ディスカッション、指導の内容を必ず消化して、卒業論文・制作を進捗させる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。必要に応じてプリントの配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	棚谷 祐一		
ナンバリング	KJh568		
学 科	人間生活学部 (K) -メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒業研究に向け、目標を定めて課題制作に取り組む。当科目は学科ディプロマポリシーの -3.4、 -2.3、 -2に該当する。

科目の概要

ゼミのテーマである音楽、音響コンテンツ制作のためのより専門的な知識と技術を獲得しつつ、作品制作を行います。

学修目標 (=到達目標)

音楽制作のプロセスを理解し、制作ツールを使いこなしてコンテンツを制作することができる。
情報発信者としてのリテラシーを身につける。

内容

授業は演習中心に講義とディスカッションを取り入れつつ行う。

1. オーディオ編集のテクニック
2. エフェクト研究～応用編その1
3. エフェクト研究～応用編その2
4. 理論実習
5. スタイル別アレンジ講座
6. 卒業作品制作、副論文作成

進度は各自の学習状況に合わせて調整します。

評価

テーマ毎に演習課題を提出する。その内容を総合評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】各回の冒頭に質疑応答を行う。

授業外学習

【事前予習】日常的にクリエイター目線で能動的かつ分析的に音楽作品を聴きこむ (毎日40分程度) 。

【事後学修】課題に取り組むことによって技術をしっかりと身に付ける (各回に対し60分) 。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【推薦書】いちばんわかりやすいDTMの教科書 松前公高 著 リットーミュージック

科目名	卒業研究		
担当教員名	川瀬 基寛		
ナンバリング	KJh568		
学 科	人間生活学部 (K) - メディアコミュニケーション学科 (KJ)		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

メディアコミュニケーション学科の学位授与方針1、2に該当する。

本科目はメディアコミュニケーション学科演習科目である。

4年間の集大成として卒業研究を行う。

科目の概要

ゼミのメインテーマ (映像、グラフィックデザインなどの制作およびメディア・リテラシー研究) から個人テーマを設定し研究計画を立て、作品制作および論文執筆を行う。

学修目標 (= 到達目標)

- ・企画力、制作力、論文執筆能力を習得する。
- ・情報発信者として、さらなるメディア・リテラシー能力の向上を目指す。
- ・メディア表現の様々な手法とクリエイティブマインドを獲得する。

内容

4年間の集大成として卒業研究を行います。

各自でテーマを選択し制作および発表を行います。

特にデザイン系 (グラフィックデザイン)、映像系 (実写、写真、モーショングラフィックス、アニメーション) を重視します。

テーマ選択 中間発表 卒業研究 (卒業制作) 発表会という順で進みます。

卒業研究の詳細は以下のどちらかを選択します。

1. 作品制作の場合、 作品 副論文 (字数指定有り、フォーマット指定)
2. 論文の場合、 論文 (字数指定有り、フォーマット指定)

作品の場合の注意事項

- ・企画書・スケジュールおよびラフデザインの事前提出と審査が必須。
- ・写真集や絵本などは外部委託による製本を行うこと。 (2冊以上)
- ・映像系はDVD化を行い、パッケージを作成すること。 (2枚以上)
- ・デザイン系の場合はA2~A3パネル化または外部委託による実物作成を行うこと。 (2点以上)

評価

研究計画書 < 企画書、ラフデザインなど含む > (30%)、研究内容 < 作品、論文 > (50%)、研究発表 < 卒研発表会、中間報告会含む > 会 (20%) などで総合的に判断し、60点以上を合格とします。

【フィードバック】研究計画書や中間報告など、毎時間進捗状況を共有し、より良い卒業研究になるようにする。

授業外学習

【事前予習】研究計画立案、資料収集を怠らない。（各60～120分）

【事後学修】計画を確認し、作品制作および論文執筆を怠らない。（各60～120分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度指示する。